◉モノグラフ

小学生ナウ

Vol.10-1

6年生白書

目次

要　約 …… 2

はじめに …… 8

1. 最上級生としての喜びと不安 …… 9

- 6年生になった気持ち …… 9
- 6年生としてのがんばり …… 14
- 担任とのふれあい …… 16
- 1日の楽しさ …… 18

2. 生活リズム …… 20

- 起床・食事・就寝 …… 20
- 生活態度 …… 24

3. 勉強をめぐって …… 26

- 学習の理解と努力 …… 26
- 家庭学習 …… 28

4. 友だち関係と遊び …… 32

- 仲よしの人数 …… 32
- 放課後の遊び …… 35
- 異性への意識 …… 37

5. 忙しい放課後 …… 38

- 塾・おけいこ通い …… 38
- 熱中していること …… 45
- テレビとのつきあい …… 46

6. 家庭生活をめぐって …… 48

- 親子のふれあい …… 48
- お手伝い …… 52

7. 6年生の描く未来の自分 …… 54

- いつまで学校へ行きたいか …… 54
- 将来の生活 …… 55
- 女性のあり方について …… 57

8. まとめに代えて …… 58

- 中学生への気持ち …… 58

地球社会の子どもたち ㉓
バンコクーその2　クロンタイを訪ねて …… 深谷昌志 …… 64

資料1　調査票見本 …… 69

資料2　基礎集計表 …… 80

※おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

調査レポート
6年生白書
要約

船橋市立大穴北小学校教諭　新井　誠

1．6年生になったときの気持ち

「うれしかった」と喜びを感じている子が5割、「ゆううつだった」と不安を感じている子が2割ほどいる。（図1）

2．6年生になってがんばったこと

「友だちと仲よくする」（44%）、「クラブ活動」（39%）、「学習塾やおけいこごと」（33%）の順で、男子より女子のほうががんばっている。また、担任との心の結びつきが強い子ほどがんばる割合は高いことに注目させられる。（図2、図3、図5）

3．1日の楽しさ

「家に帰ってから友だちと遊ぶ」「昼休み、友だちと遊ぶ」「テレビを見る」ときが男女とも最も楽しいとされており、逆に楽しくないのは、「朝の時間帯」と「勉強する」ときのようである。（表3）

4．生活リズム

6時半～7時頃に起きる子が35%と一番多いが、「いつも1人で起きる」子は29%しかいない。11時以降まで夜ふかしをしている子も4分の1近くいる。(図7、図8、図13)

5．朝食

朝食抜きの子は3%と少ないが、少ししか食べない食欲の乏しい子は36%いる。また、家族全員で食事をした子はわずか26%、朝一人で食事をした子は31%。(図10、図11)

6．生活態度

整理整頓を「いつもする」子が24%、規則やきまりを守る態度が「とてもよい」子は5%と生活態度の崩れが感じられる。(図15、図16)

7．学校の勉強の理解

「とても・かなりよくわかる」子は、国語(55%)、算数(50%)、社会(51%)、理科(52%)と、主要4教科では半数程度である。(図17)

8．何の勉強をがんばっているか

学校でがんばっている教科は、男子は「体育」、女子は「家庭科」である。帰宅後は、男女とも「算数」を一番がんばっている。(表5、表6)

要　約

９．家庭での勉強

自分１人の勉強部屋を持っている子は52％。家庭学習は１時間程度が25％と一番多く、４時間以上勉強する子も５％ほどいる。５年時よりも勉強量がふえたという子が55％。全体としては、男子よりも女子のほうが勉強している。（図18、図21、図22）

10．仲よしの人数

一緒に遊ぶ仲よしの人数は、学校では「４～５人」、家に帰ってからは「２～３人」が一番多い。男子よりも女子、学校よりも家庭に帰ってからのほうが、遊び人数のサイズは小さくなる。

６年生になってから仲よしがふえたという子は、「学校」では45％、「家に帰ってから」では30％ほどいる。（図24～図27）

11．放課後の遊び

あるウィークデーをとると、天候がよかったにもかかわらず、36％しか友だちと遊んでいない。友だちと遊ぶ頻度も「ほとんど遊ばない」子と「週に１～２日遊ぶ」子で５割近くなり、６年生になってから友だちと遊ぶ時間がへった子が４割を超す。この傾向はとくに女子に多い。（図28～図31）

12．好きな異性

好きな異性のいる子は、男子で41％、女子で55％となっており、男子に比べ女子のほうが早い時期に好きな相手がほしいと思っている。（図32、図33）

13. 1週間のスケジュール

1週間全く予定のない子は7%、1週間のうち4日以上予定のある子は5割、全て予定があるという子も6%いる。(表7)

14. 通塾

塾に行っている子は6割で、行っていない子の7割は「中学生になったら行こう」と思っている。通塾日数は週2日が33%で一番多い。(図34～図36)

15. おけいこごと

おけいこごとをしている子は男子で47%、女子で66%おり、男子は習字、女子はピアノが一番多い。(図38、表9)

16. 熱中していること

熱中していることがある子は、男子53%、女子47%。男子は「ファミコン」、女子は「ピアノ」が筆頭である。(図39、表11)

17. テレビ視聴

「1時間半以内」「2～2時間半」「3時間以上」テレビを見る子がほぼ3分の1ずつおり、男子のほうが長時間視聴の傾向がある。人気がある番組は、アニメやバラエティ番組である。(図40、表12)

要　約

18. 親子のふれあい

父親のことを「とても・わりと頼りになる」と思っている子は4分の3ほどいる。母親と話をすることが「とてもある」子は男子で55%、女子で74%。(図41、図42)

19. お手伝い

毎日お手伝いをする子は、男子17%、女子28%。母親が働いている子ほどお手伝いをする割合は高い。(図45、図47)

20. 将来の進路

大学進学を希望する子は、男子70%、女子72%。(図48)

●調査概要

1.調査主題　6年生白書

2.調査視点　6年生の子どもたちの勉強や友だち関係、ものの考え方などを明らかにし、最高学年としての子どもたちの成長発達の特徴を探ろうとする。

3.調査項目　生活時間、6年生としてのがんばり、1日の楽しさ、勉強について、友だち関係、学習塾・おけいこごと、テレビ、お手伝い、親子のふれあい、将来の自分、など。

21．将来の生活

男女とも「趣味にあった暮らしをしたい」と思っている子が最も多く、「社会のためになるようなことをして暮らしたい」子は少ない。また、母親が仕事を持っている子ほど、「働く母親でありたい」「働く母親を妻にしたい」という気持ちが強い。（表15、表17）

22．成長欲求

「早く中学生になりたい」子は、男子48%、女子44%。女子は男子に比べ、いつまでも小学生のままでいたいという傾向が強い。（図50）

23．まとめ

全体を通して一番気になったのは、22で指摘したように、中学進学を不安に思う子が、「勉強が難しそう、上下関係がきびしそう、規則がきびしそう、つっぱりの子がいる」などの点で少なからずいること。また「幼稚園の頃」に戻って「人生を出直したい」と、すでに人生に挫折感を抱いている子の存在であった。

彼らの上に、どう子どもらしい輝きと希望に支えられた日々をとり戻させるか、それがおとなたちに与えられた、さし迫った課題であろう。

4.調査時期　1989年11月～12月

5.調査対象　東京、千葉、愛媛の小学6年生

6.調査方法　学校通しによる質問紙調査

7.サンプル数

男子650名、女子563名、合計1,213名。

はじめに

新しいランドセルを背に入学してきた1年生の世話をしている6年生の姿を見ると、小学校生活6年間の子どもたちの成長ぶりを改めて感じる。

小学校生活のまとまりをつけ、最上級生として全校をリードし、中学校への準備をする6年生。彼らを担任しての初めの何日間かは、どの子も実に立派に見え、たのもしい気分になる。ところが、何日かたつと、この学年の指導の難しさに気づく。おとなびたものの言い方をして、しっかりしたことを話していると思う反面、自分勝手な自己主張ばかりの子もいる。言葉は立派だけれど行動は幼く、悪ふざけばかり繰り返す子。何事にも批判的で、教師に反抗的な態度をとることに喜びを覚えるかのような子。いくら勉強したって、自分はできないんだと、学習意欲をなくしてしまっている子もいる。妙に男女を意識し、男女間がギスギスすることも6年生になるとよく見られる。

6年生とは子どもの成長過程の中でどんな学年なのか。6年生自身は、6年生という学年をどのように思い、行動しているのか。本調査では、とくにテーマを設けず多くの領域にわたってデータを収集し、思春期を前にした6年生の成長発達の全体像をとらえたいと考える。

調査対象は、東京、千葉、愛媛の小学6年生の男女1,213名。調査時期は、6年生の生活も半ばを過ぎ、そろそろ中学校入学を意識しはじめる11月末から12月初めにかけて調査を実施した。

1．最上級生としての喜びと不安

６年生への進級は、子どもたちの心の中にどんな変化を与えるのか。「６年生白書」のスタートを、まず６年生になった気持ちを探ることから始めよう。

6年生になった気持ち

図１が示すように、６年生になって「とてもうれしかった」子は17%。「わりとうれしかった」を含めると、５割強の子が最上級生としての喜びを感じている。しかし一方で、「とても・少しゆううつ」と不安を感じている子も２割ほどいる。

性差をみると、女子のほうがうれしい気持ちも不安な気持ちも強いようである。

このうれしさとゆううつ感はどんな点から生じているのだろうか。その代表的な理由を**表１、表２**に掲げてみた。

「うれしかった」理由としては、表１にもあるように、最高学年として、自分たちが中心になって全校をリードしたり、１・２年生の世話ができるからという理由が多かった。一人前として認められたことが、うれしさややる気、責任の自覚につながっているようである。表１の最後に「えーと、えーと、こい人ができたから」と書いた女子がいる。一瞬「ドキン」とするが、異性を意識しはじめる６年女子の素直な心情なのだろう。

一方、「ゆううつ」という子は表２に掲げたように、「もうすぐ、みんなとわかれると思うと寂しい」「最高学年で仕事が多くなり、がんばっているのに、先生に叱られる」「勉強が難しくなる」「学校を動かせるかどうか

心配」などの理由が多かった。最後の「6年になってもおもしろくないし、中学校へなんかいきたくないし、生きててうれしいとも思わないから」という理由に出会うと、担任の先生は、この子の気持ちをわかっているのかが気にかかる。

図1　6年生になったときの気持ち

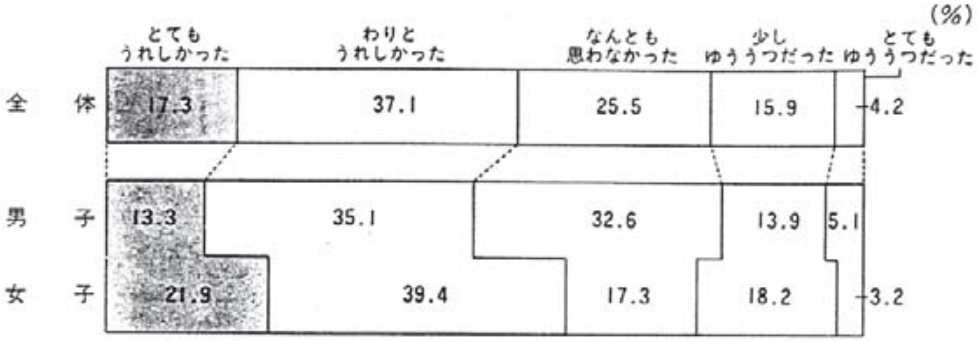


表1　6年生になったときの気持ち

〈うれしかった〉

（男子）

最上級生になってまた一歩成長した。成長がうれしかった。
小学の最高学年として これから、ぼくたち、中心で、やれるから。
最高学年として、学校のために、ほう仕活動をやったり、1年生、2年生、3年生などといっしょに遊べるから。
小学校の中で一番年上で、下級生に尊敬されるから
学校など、部活などで代表になれるから。

表1　6年生になったときの気持ち
〈うれしかった〉

（男子）

最上級生でいろんなことができるから。遠足や現場学習も、いろんな所へ行けるから。

（女子）

今までカとなった5年間をいかしてがんばろうと思ったことと、いろいろなことにちょう戦してみようと思ったから。

・最上級生になって、せきにんがおもくなり、少しやる気がでてきたから
・中学に1歩近ずいたから。

一年生のせわや、委員会、クラブの仕事など上級生を気にせずにできるから。

いっぱい友達などが、いるから。
又、六年生になると、いろいろな、勉強などできてたのしいから。

・なんとなく、自かくが出てきて、「がんばらなくっちゃ！」と思ったし、家族や親せきも、わたしをみとめてくれるようになったから。
・クラスがえもなく、仲の良い友達といっしょだったし、部活でも友達が増やせそうな気がした。

えーと えーと、こいんができたから。

表2　6年生になったときの気持ち

〈ゆううつだった〉

（男 子）

もうすぐで、クラスのみんなとわかれてしまうと思うと、さびしかったから。
小学校では最高学年だから、いつもていい学年の見本となって、ほうし活動などで自分から進んでしなくてはならないから。しかも「最高学なんだから」とちょくちょくいわれるから。
今まで、まかせっきりだったのが、今度は、まかせられるという、最高学年になったから心配だった。
最高学年で手つだいばかりさせられ下校がおそくなるから。
がんばっているのに、先生にしかられる。

表2　6年生になったときの気持ち
〈ゆううつだった〉

（女子）

小学校生活が、あと1年しかなくなってしまって
さみしいから。

小学校のトップになって、いろいろとくらべられる
ので、とても、ゆううつだった
これから、学校をうごかせるか、どうか。

6年生になったら、1年生の世話をしないといけないので、できるかどうか心配だったし、小学校で1番上の学年になると、なんとなく上にたよれる人がいなくなってしまうような気がして、たいへんなかんじがしたから。

あと1年で中学生じ勉強もむずかしくなると思っていたから。

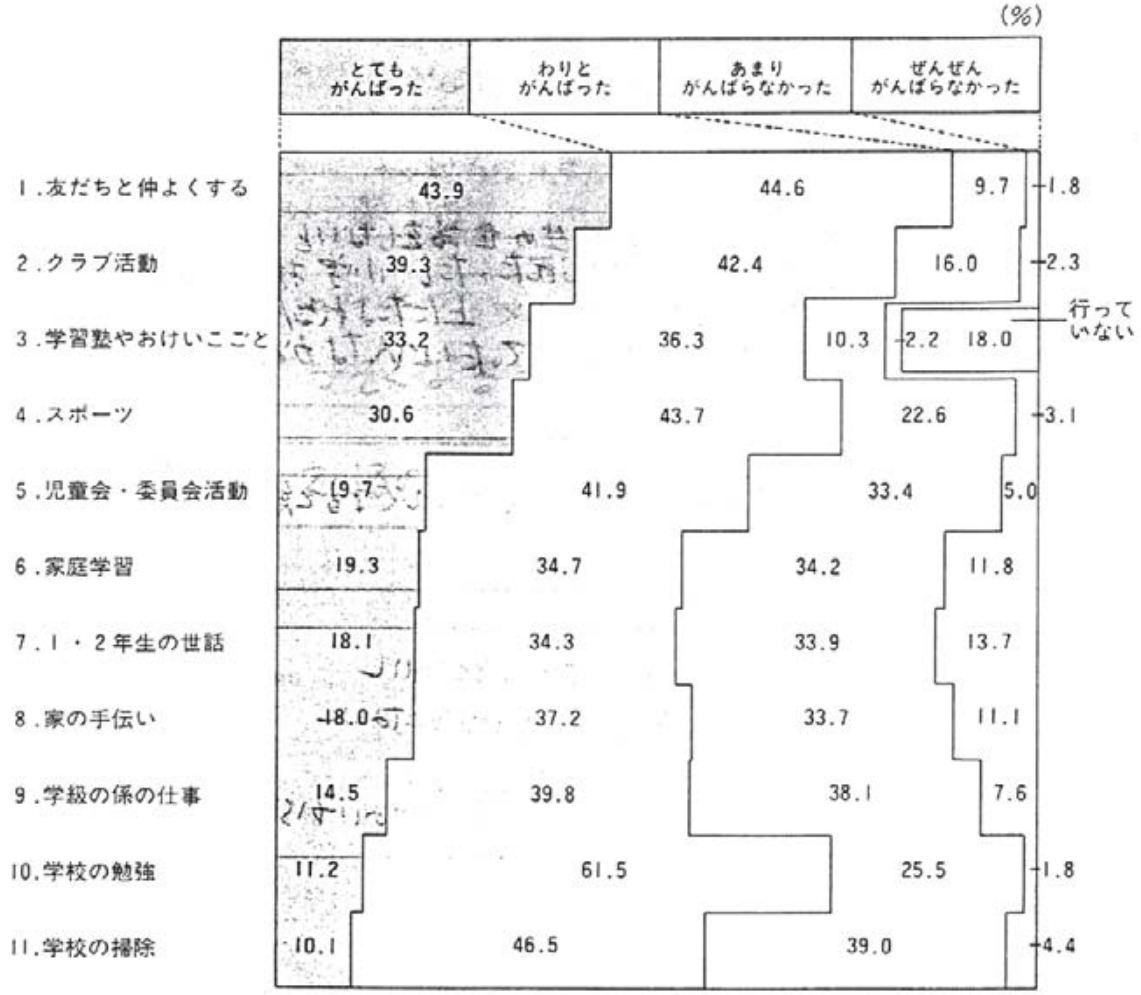
6年になっても　おもしろくないし
中学校へなんかいきたくないし
生きてて　うれしいとも
思わないから

6年生としてのがんばり

最上級生としての喜びはもちろんあるが、責任の重さをも感じ、緊張し、不安を抱いている6年生。彼らは6年生になって何を一番がんばったのだろう。

図2は、「とてもがんばった」の数値の高い順に整理してあるが、第1位の「友だちと

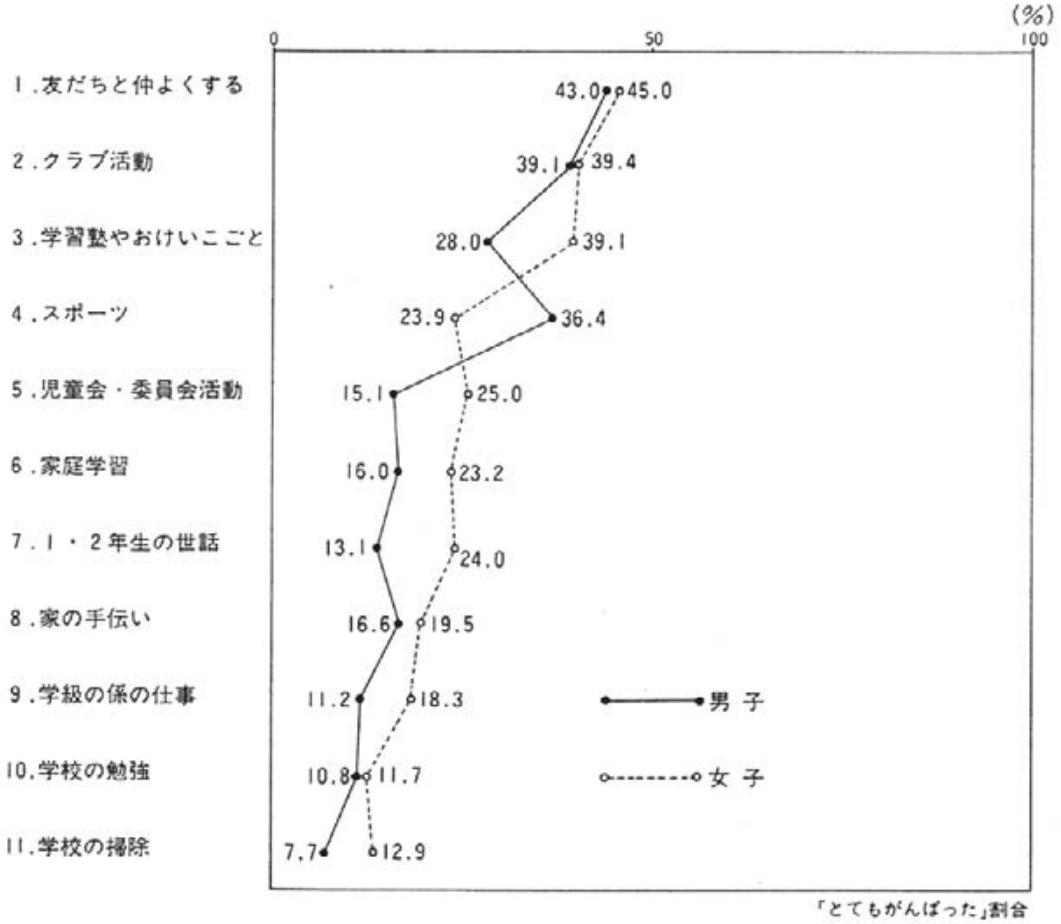
図2　6年生になってがんばったこと



仲よくする」が44%。以下、「クラブ活動」(39%)、「学習塾やおけいこごと」(33%)、「スポーツ」(31%)と続く。「わりとがんばった」まで含めると、11項目全てで5割を超す。逆に、「がんばらなかった」割合が高い項目は、「1・2年生の世話」「家庭学習」「家の手伝い」「学級の係の仕事」「学校の掃除」などである。

次に、図3で性差についてみると、「スポーツ」では男子、「学習塾やおけいこごと」「児童会・委員会活動」「1・2年生の世話」では女子のほうがんばる傾向が強い。

図3　6年生になってがんばったこと×性



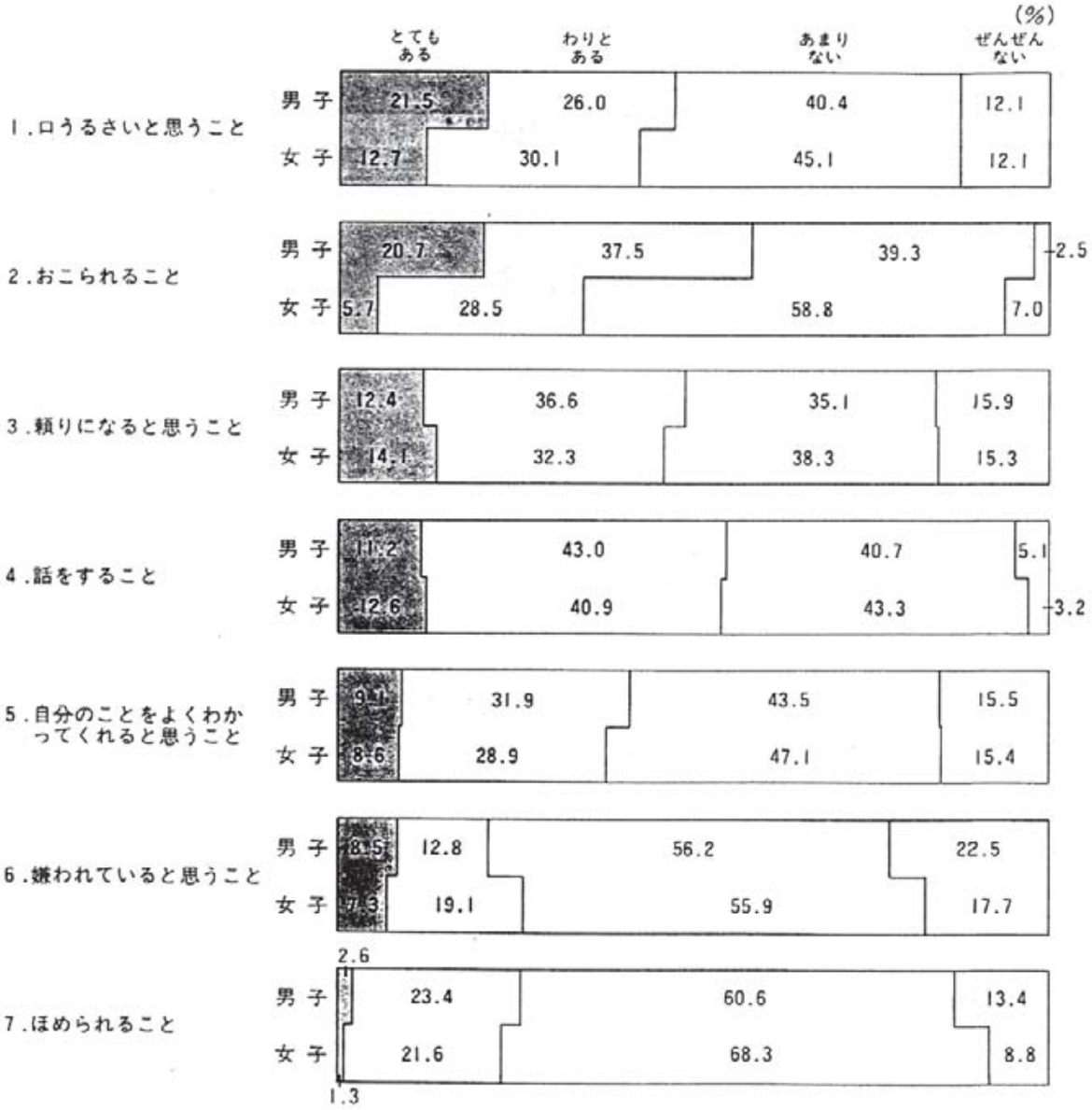
「とてもがんばった」割合

担任とのふれあい

では、担任の先生とのふれあいはどのくらいあるのだろう。その点について調べたのが、図4である。

図4をみると、どの項目も「とてもある」の数値が低いことに気がつく。「話をすること」という一般的なふれあいでも、「とてもある」子は男女とも1割そこそこ、「わりとある」を加えても5割強で、残り半数近くの

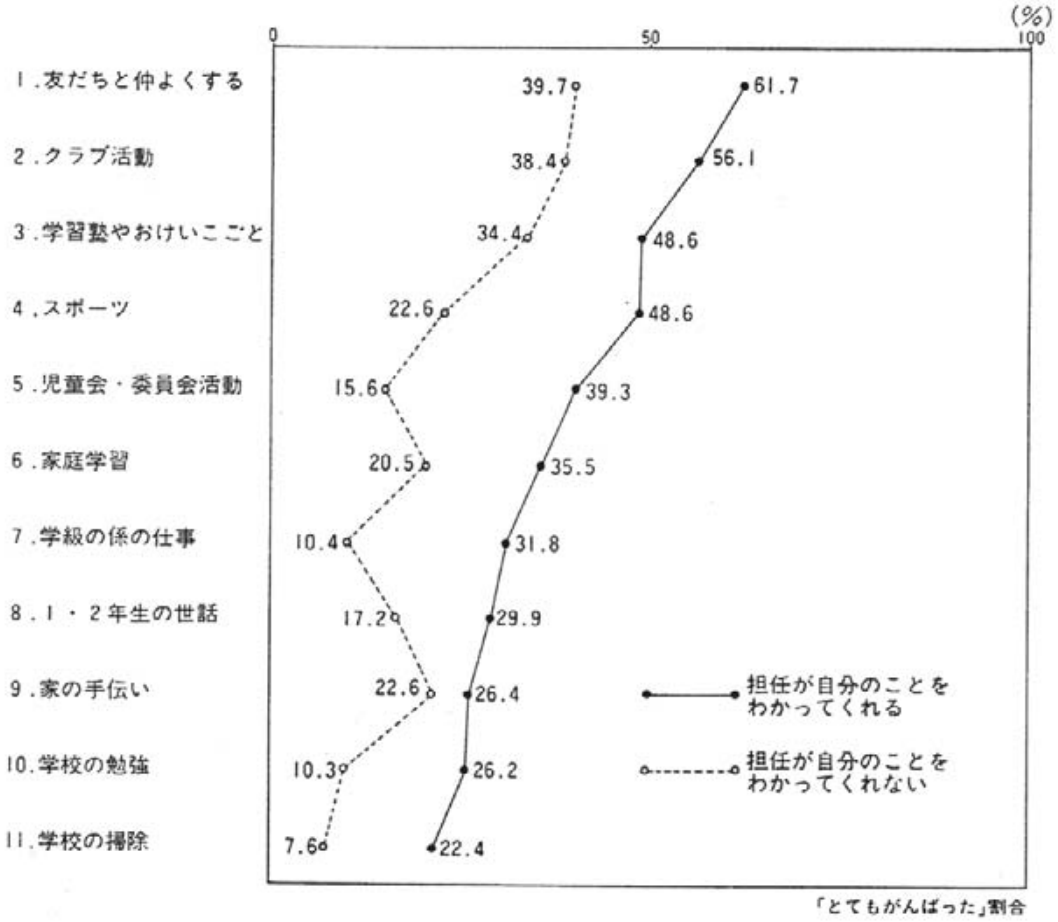
図4　担任とのふれあい



子は担任とあまり話もしていない。6年生の担任ともなると、校内だけでなく、校外での仕事もふえ、子どもたちとふれあう機会が持てなくなるのだろう。また、「ほめられること」は、他の項目に比べて一層少ない。先生方の中に「6年生だから……」という気持ちがあり、ついつい口うるさくなったり、おこってしまったりしてしまうのだろう。

担任との心の結びつきが、子どもたちのがんばりに少なからぬ影響を与えることは、図5から明らかである。担任が自分のことをわかってくれると思っている子は、そうでない子に比べて、「友だちと仲よくする」以下の11項目全てで「とてもがんばった」という割合が高い。改めて「きずな」の大切さが胸にひびく。

図5　6年生になってがんばったこと×担任との心の結びつき



1日の楽しさ

次に、1日の楽しさについてみてみよう。

表3は、1日のどの時間が6年生にとって楽しいかを表の下部に示した尺度で尋ね、「とても楽しい」と答えた者の割合を示したものである。表中の○付き数字は1位から5位まで示したものだが、1日のうちで6年生が楽しいと思うのは「友だちと遊んでいるとき」「テレビを見ているとき」「体育の時間」である。性差をみると、男子は「体育の時間」「給食の時間」が楽しく、女子は「お父さんやお母

表3　1日の楽しさ

(%)

	全体	男子		女子
1.朝、目がさめたとき（ふとんの中で）	3.0	3.4		2.5
2.朝食のとき	3.6	3.1		4.1
3.朝、授業の始まる前	6.0	5.7		6.2
4.算数の時間	8.9	10.3		7.3
5.体育の時間	④35.4	④41.1	>	⑤28.6
6.給食の時間	26.9	⑤31.3	>	21.9
7.昼休み、友だちと遊んでいるとき	②58.3	②57.2		②59.7
8.家に帰ってから友だちと遊ぶとき	①61.6	①61.3		①61.9
9.家でマンガを読んでいるとき	⑤31.3	29.8		④32.9
10.夕食のとき	18.9	15.0	<	23.5
11.お父さんやお母さんと話をしているとき	18.0	12.2	<	24.6
12.テレビを見ているとき	③42.8	③43.6		③41.9
13.宿題や勉強をしているとき	3.0	2.3		3.7
14.夜、ふとんの中に入ったとき	19.3	18.4		20.2
15.夜、ねむっているとき	19.3	19.9		18.5

○は順位

とても楽しい ① ―― 2 ―― 3 ―― 4 ―― 5 ぜんぜん楽しくない

わりと楽しい　ふつう　あまり楽しくない

%

不等号は5%を単位として差を表す

さんと話をしているとき」や「夕食のとき」を楽しいと感じる割合が高い。女子はこの年齢ですでに、家族のきずなを大切に思っているのだろうか。

反対に子どもにとって灰色なのは、「朝の時間」と「勉強」のようだ。これは男女を問わずほぼ共通の傾向である。

この灰色の気分について、さらに考察を進めたい。図6は、6年生の中にあるグルーミーな気分である。数値が高いのは「もっとゆっくり寝たい」「もっと遊びたい」で、「いつもそう思う」子は4割を超える。

また、表4で、こうした灰色の気分と成績との関連をみてみた。成績との関連は大きく、成績が上位と中位ではそれほど差がないが、下位のグループが灰色の気分の中にあることがわかる。

以上、1章では、6年生の姿を概括的にとらえたが、2章以下では、生活リズム、勉強、友だち関係、遊びなどについてさらに探ってゆこう。

図6　灰色の気分

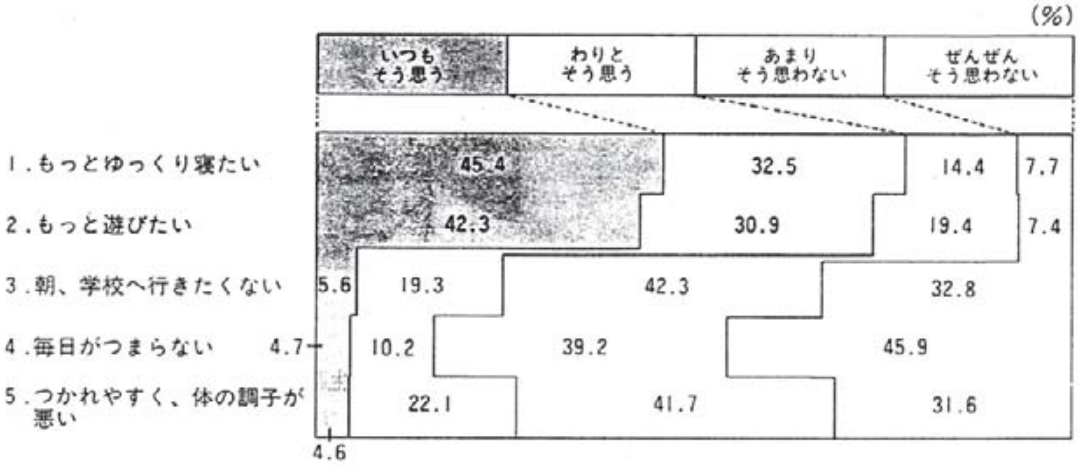


表4　灰色の気分×成績

(%)

	成績		
	上位	中位	下位
1.もっとゆっくり寝たい	44.1	43.3	(51.0)
2.もっと遊びたい	47.0	36.4	(49.5)
3.朝、学校へ行きたくない	3.6	2.9	(12.5)
4.毎日がつまらない	1.8	3.7	(8.9)
5.つかれやすく、体の調子が悪い	3.6	3.1	(7.9)

◯は最大値
「いつもそう思う」割合

2. 生活リズム

さて、6年生はどんな日常生活を送っているのか、その生活ぶりをみてゆくことにする。

起床・食事・就寝

6年生の平均的な朝のようすをスケッチしてみる。6割が6時から7時までに起きるが、7時過ぎに起きる朝寝坊な子も3割(図7)。また、「いつも1人で起きる」子は3割にも達しない(図8)。6年生になっても、朝起こさなければならない母親も大変だろう。

その後、半数近くが7時から7時半までに朝食をとる(図9)。ひと頃、子どもにきちんと朝食をとらせない母親が話題になったが、朝食を「食べない」子は3%と、共働き率6割を超える状況にもかかわらず、母親はよく朝食を作っている。しかし、「しっかり食べる」子は6割程度で(図10)、食欲の乏しい子もいる。「家族全員がそろって朝食をとる」家族は4分の1足らずで、「1人で食事をする」子も3割ほど(図11)。各人の出勤、登校時間にあわせて、思い思いに朝食をとって、あわただしく出かけていくのだろう。

次に図12は、夕食のようすである。「1人で食べる」子は4%と少ないが、「家族全員で」という家庭もやっと5割。きっと父親の帰宅が遅いのだろう。企業戦士として働くことを余儀なくさせられている日本の父親の姿が浮かび上がってくる。

朝寝坊な子も多い6年生だが、彼らは何時頃就寝するのか。図13によると、10時以降が

6割を超し、11時以降という子もほぼ4人に1人いる。6年になると、全体的に夜ふかし型になる。夜ふかしからくる睡眠不足がおよぼす、成長期の子どもたちの体に与える影響が気にかかる。

図7　起床時間

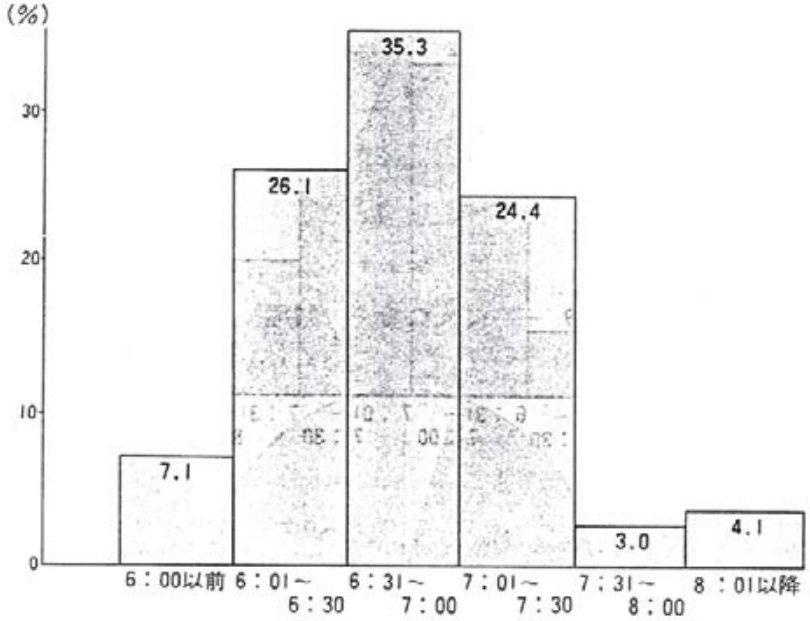


図8　1人で起きる

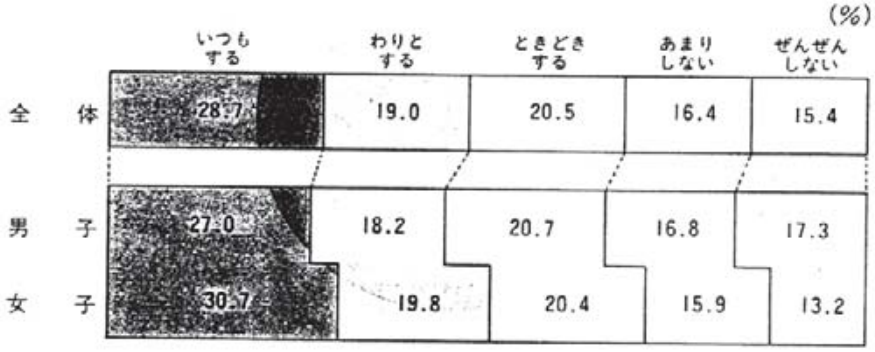


図9　朝食時間

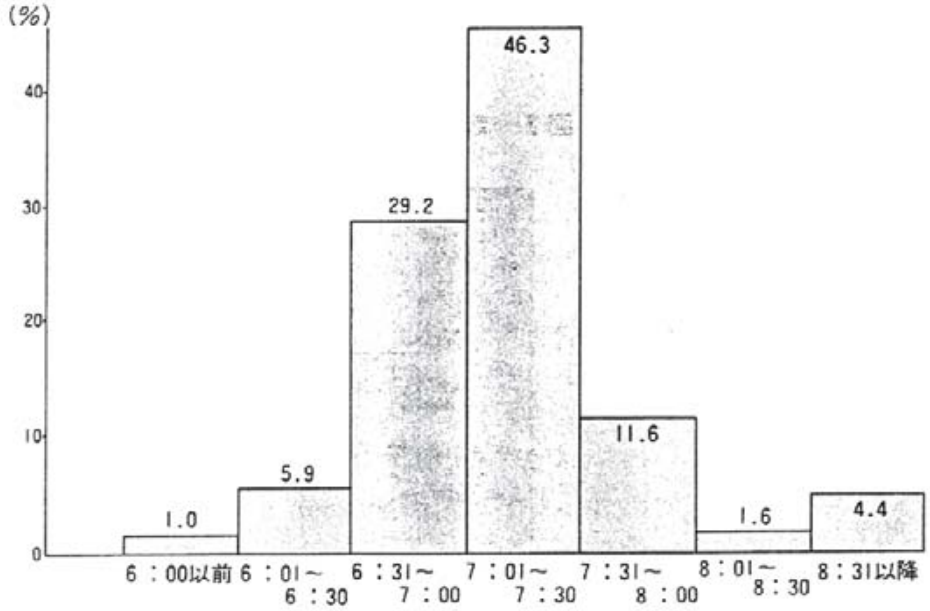


図10　朝の食欲

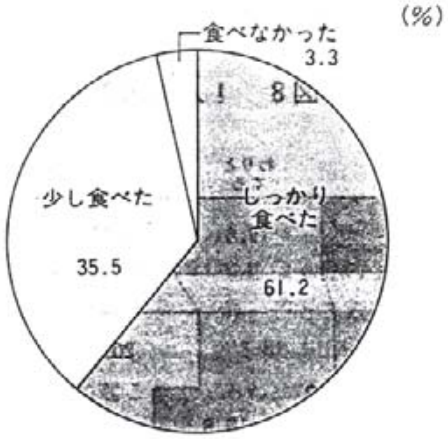


図11　朝食のメンバー

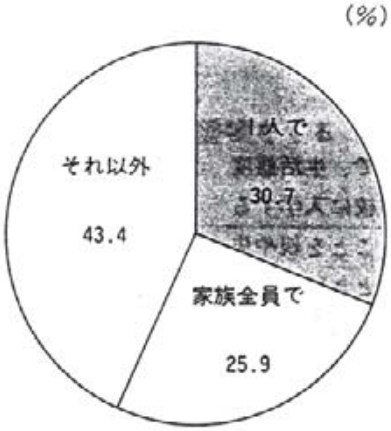


図12　夕食のメンバー

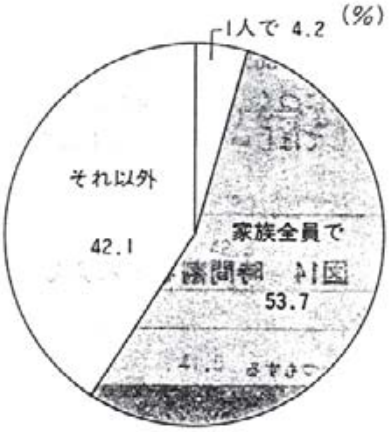
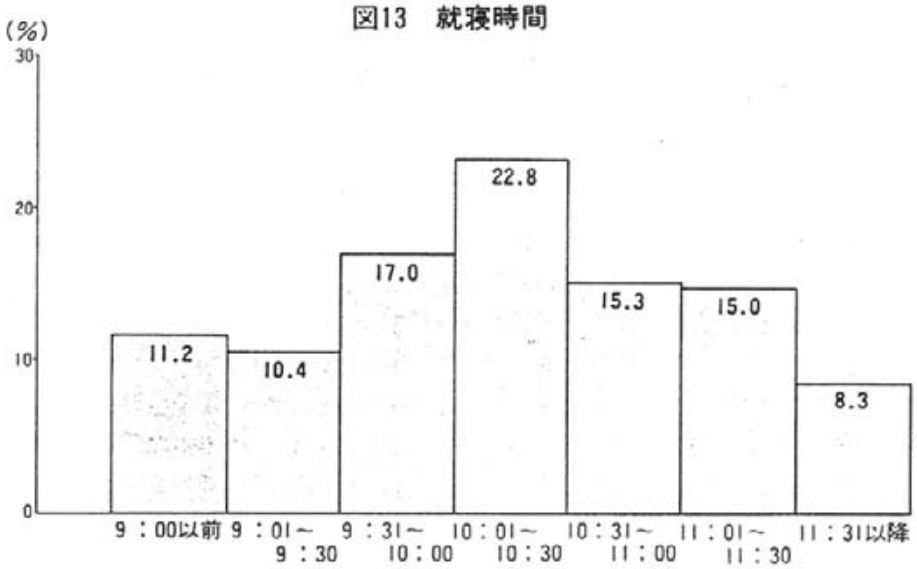


図13　就寝時間



生活態度

生活リズムをみてきたところで、生活態度についてもふれておこう。小学校に入学するとまず、「時間割をそろえる」ことを親や先生からしつけられる。1年生のときはしっかりできていたことが、6年生になるとかえってできなくなってしまうことが図14をみると明らかである。とくに男子がルーズで、「いつもするべきことができている」子は、半数にも満たない。学校での忘れ物が6年生で多いのもうなずける数字である。

さらに、図15で「整理整頓」状況をみてみると、「いつも・わりとする」子は男子36%女子66%と、男子のだらしなさが目につく。6年生だから生活面でもしっかりしてほしいと思うが、逆に基本的生活習慣が乱れてきている。

そこで、彼らの「きまり」に対する意識を探ってみたのが図16である。図から明らかなように「規則やきまりをしっかり守っている」子は5%と少ない。「わりと」を含めても27%で、逆に「やや・とてもよくない」子が3割もいる。全校をリードする立場の6年生として規則やきまりをしっかり守ってほしいと教師側は願うが、逆に、規則やきまりから解放されたい、自由に行動したいという意識が強まるようである。教師や親からみれば、好ましいとはいえない態度だが、これもおとなへの成長のステップなのかもしれない。

図14　時間割をそろえる

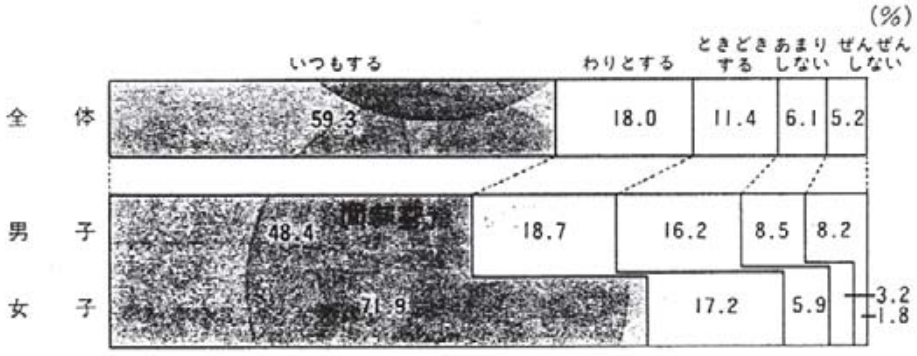


図15　整理整頓をする

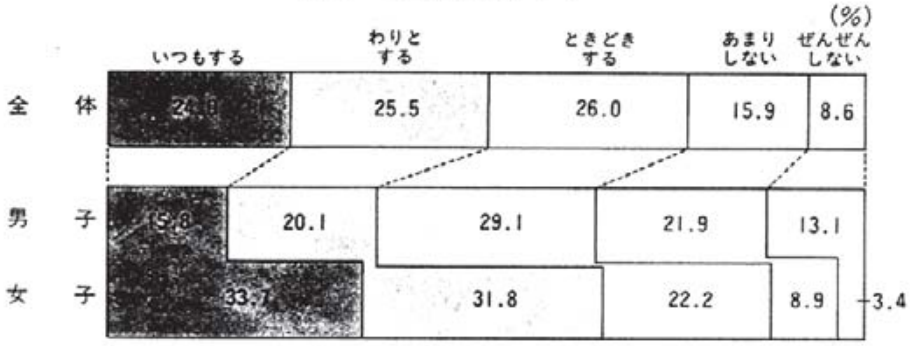
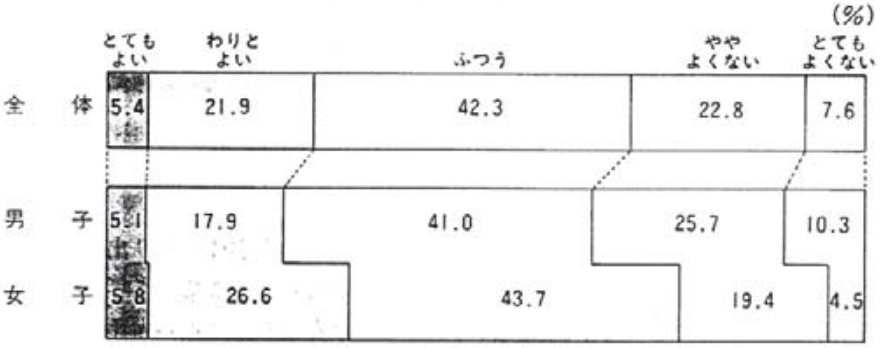


図16　規則やきまりを守る態度



3. 勉強をめぐって

学校教育の中核的機能は何といっても知育である。6年生の担任をすると、子どもたちの学力が気にかかる。どの子にも小学校で身につけるべき、基礎的・基本的な学力をしっかりつけて中学校へ送り出したいと授業にも力がこもる。そこで、6年生の勉強への取り組みとそれを支える学習環境について、具体的な接近を試みよう。

学習の理解と努力

国語、算数、社会、理科を6年生はどの程度理解しているかを調べたのが図17である。図17によると、4教科とも「とてもよくわかる」子は2割程度、「かなり」を含めると5割程度である。逆に「あまりよく・ぜんぜんわからない」子は、社会科が16%と一番高く、以下、1割前後で、算数、理科、国語となる。性差をみると、国語以外は、男子のほうがよくわかると答えている。

ここで、授業中のがんばりについてさらに探っていきたい。表5によると、男子では「体育」、女子では「家庭科、音楽、体育」といった技能教科のがんばり度が高く、「とても・わりとがんばっている」子の割合は7割を超える。一方、いわゆる主要4教科をがんばっている子の割合は5割台で、学習の理解と授業中のがんばりの関連が強い。

図17　学校の勉強の理解

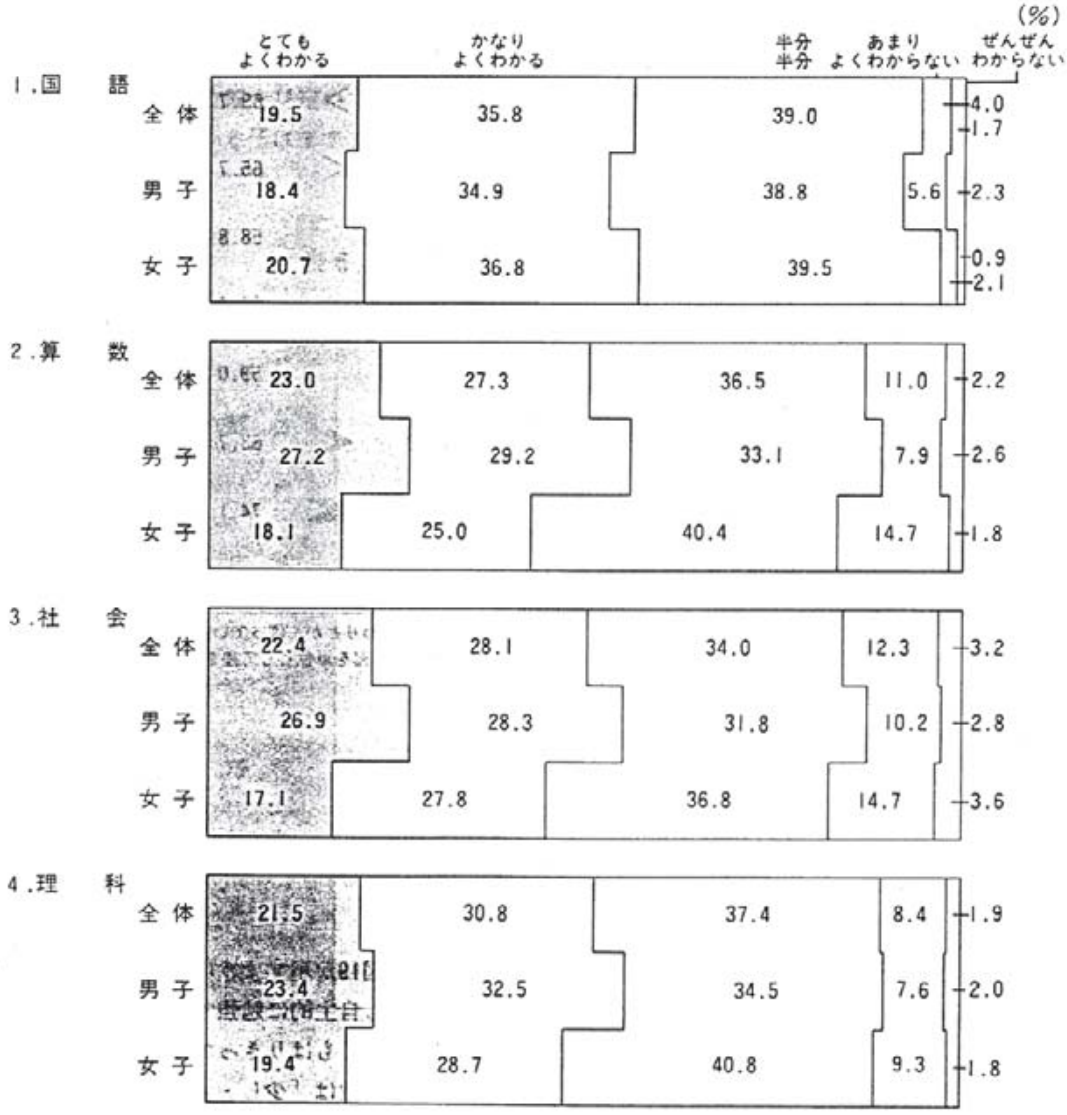


表5　授業でのがんばり

(%)

	全　体	男　子		女　子
1.体　育	72.7	75.2	>	69.7
2.図　工	61.2	57.2	<	65.7
3.社　会	58.2	57.7		58.8
4.理　科	58.2	59.1		57.2
5.算　数	58.1	57.5		59.0
6.国　語	55.2	47.8	≪	63.7
7.家庭科	53.2	35.1	≪≪	74.1
8.音　楽	52.6	36.6	≪≪	71.0

「とても・わりとがんばっている」割合
不等号は5%を単位として差を表す

家庭学習

表6によると、算数を「とても・わりとがんばっている」子が男女とも一番多く(63%)、次に、国語（52%）が続く。学校では学習理解度に影響されない技能教科をがんばり、家では最も重要視されている算数、国語の学力を高めようとしている6年生の姿が浮かび上がってくる。その他、表6で目につくのは、英語をがんばっている子が4割強いることだ。かなり中学での学習を意識していることをうかがわせる。

さらに6年生の家庭学習状況について考察を進めよう。図18は勉強部屋を持っている割合を示している。2人に1人は、自分だけの勉強部屋を持ち、きょうだいとの共有も含めると、実に9割の子が勉強部屋を持っている。

しかし図19が示すように、そんな勉強部屋で「いつも自主的に勉強する」子は1割強であり、「とてもはりきって勉強している子」は6%、半数は「少し・とてもいやだ」と思って勉強していることが気にかかる(図20)。

図21で家庭での勉強時間を調べると、「30分～1時間くらい勉強する」子が約半数、「4時間以上勉強する」子が5%いる一方で、「ほとんどしない」子が14%もいる。この勉強時間を5年時と比較すると、「とてもふえた」子は15%、「少しふえた」も含めると55%になり、「少し・とてもへった」子は15%（図22）。これでみると、6年生になると、5年生に比べ家での勉強量はふえるものの、全体がよく勉強するようになるというより、一部猛烈に

勉強する層とほどほどに勉強する層、ほとんどやらない層に分離していくようである。このような背景には、6年生にもなるとクラスの中で自分がどのくらい勉強ができるのかというクラス内での位置を見定めてしまい、成績がよいと思っている子はますます勉強するが、成績が悪いと思っている子はダメだとあきらめてしまうのだろう。そのことがうかがえるのが図23の成績の自己評価である。通知表の5段階評価の評価分配率と思えるほどに、「とてもよい」から「とてもよくない」までの5段階にきれいに分布している。

表6　家庭や塾での勉強のがんばり

(%)

	全　体	男　子		女　子
1.算　数	62.7	61.0		64.8
2.国　語	51.8	47.4	<	57.0
3.体　育	45.2	48.2	>	41.7
4.社　会	44.3	42.8		46.1
5.英　語	41.6	35.2	<	49.0
6.理　科	38.5	37.6		39.6
7.音　楽	32.0	13.6	<<	52.8
8.家庭科	30.6	15.1	<<	48.0
9.図　工	23.0	19.9	<	26.7

「とても・わりとがんばっている」割合
不等号は5%を単位として差を表す

図18　勉強部屋

(%)

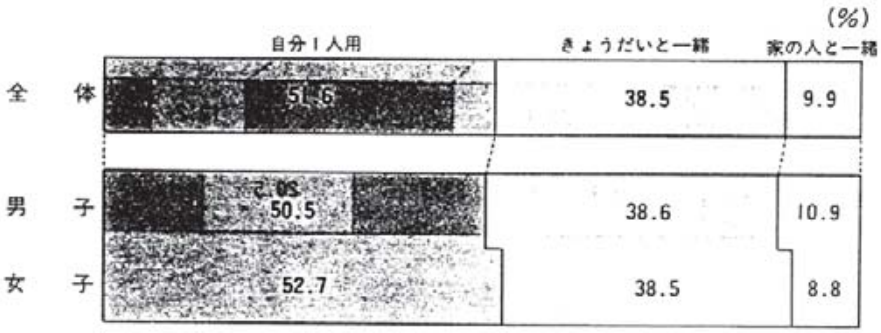


図19　自主的な勉強態度

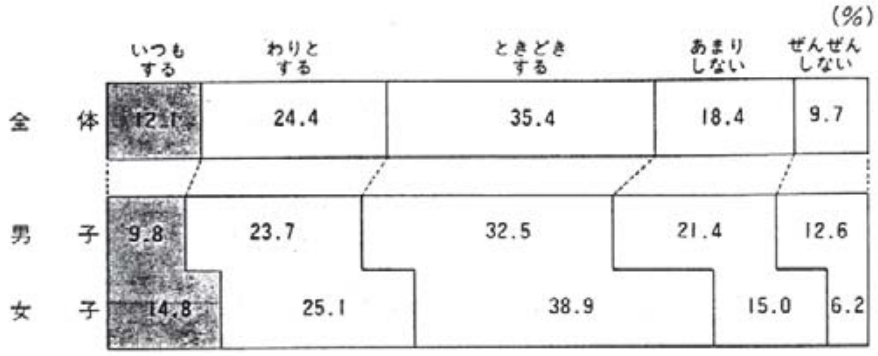


図20　家で勉強しているときの気持ち

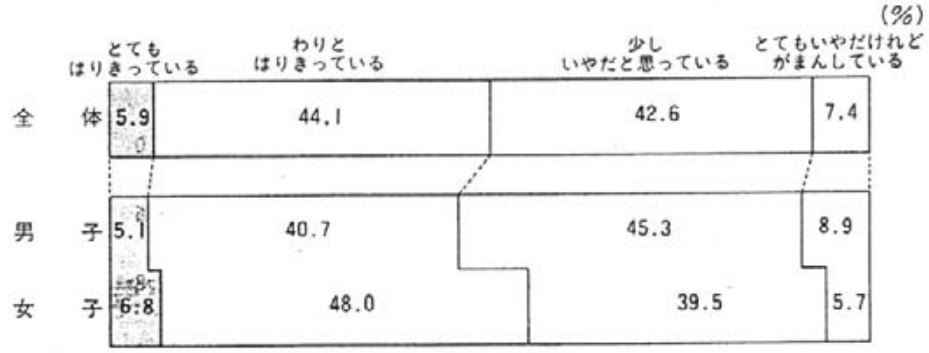


図21　家庭学習の時間

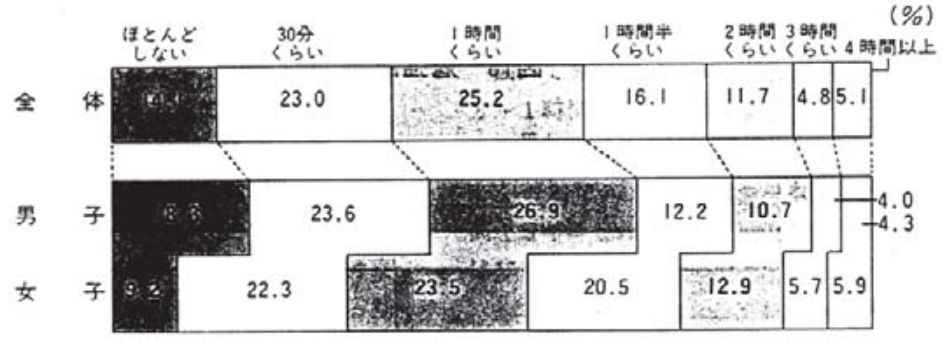


図22　家での勉強量（5年時との比較）

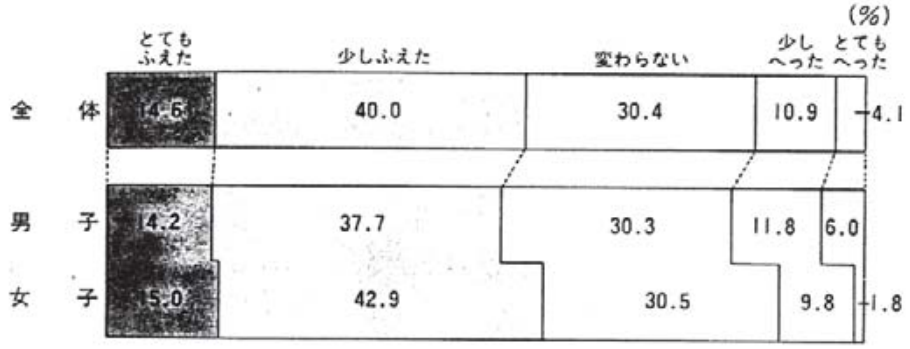
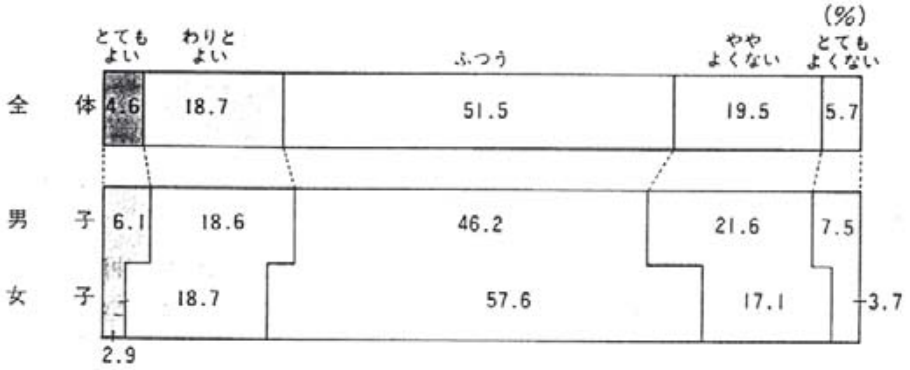


図23　成績の自己評価



4. 友だち関係と遊び

かつて子どもたちは学校ではむろん、地域でも遊び仲間を持ち、夕方暗くなるまで遊んでいた。徒党を組み、おとなの目からみれば、時には顔をしかめるような遊びもしていた。しかし、彼らはそうした遊び仲間との交流を通して、教室では得られない遊び体験や仲間と過ごすことの楽しさ、仲間とのつきあい方などを習得していった。このようにいうまでもなく、遊び仲間は子どもの成長にはかかせないものであった。では今、6年生にとって遊び仲間はどうなっているのか。

仲よしの人数

1章でみてきたように、6年生は帰宅後や昼休みに友だちと遊ぶことが一番楽しいといっていた。ではまず、学校でいつも一緒に遊ぶ仲よしの人数からみていきたい（図24）。図から明らかなように、「4～5人」で遊ぶ子が34%でトップ、次いで、「2～3人」が23%と少人数で遊んでいる子が多い。この傾向はとくに女子に強い。さらに図25をみると、6年生になって仲よしの人数がふえた子が45%ほどいる。クラスが替わると仲間関係まで変化してしまうことを考えると、5年時進級のときにクラス替えをした子どもたちの半数近くの子が、また新たに友だちを作ったといえる。だが、「とてもふえた」という子は1割ほどである。6年生になるとむしろ中学進学を意識してか、それほどたくさん友だちを

作ろうという気持ちも起こらず、気のあった数人の友だちがふえることで満足してしまうのかもしれない。

図26は、家に帰ってから遊ぶ仲よしの人数である。「2～3人」で遊ぶことが42%と最も多くなり、学校での遊びグループよりも一層少人数化していることがわかる。「仲よしがいない」という子も8%ほどおり、家に帰ってからの子どもの孤立化傾向が気にかかる。5年時との家に帰ってからの仲よし人数を比較した図27とさきに紹介した図25を見比べてみても、家に帰ってからの仲よし人数は、学校の仲よしに比べ、増加の割合は低く、逆に減少の割合が高い。

図24　学校で遊ぶ仲よしの人数

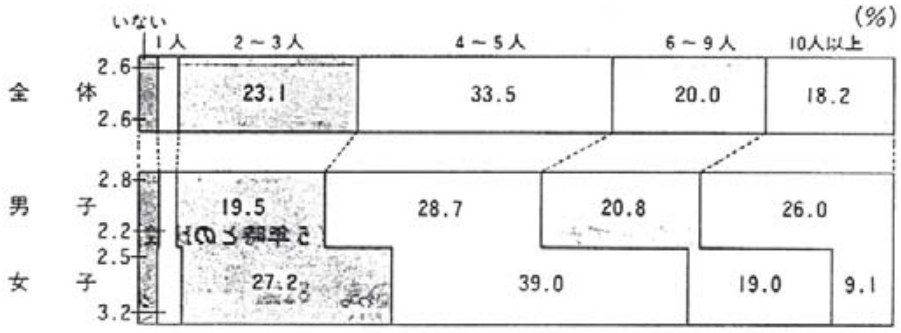


図25　学校での仲よしの人数（5年時との比較）

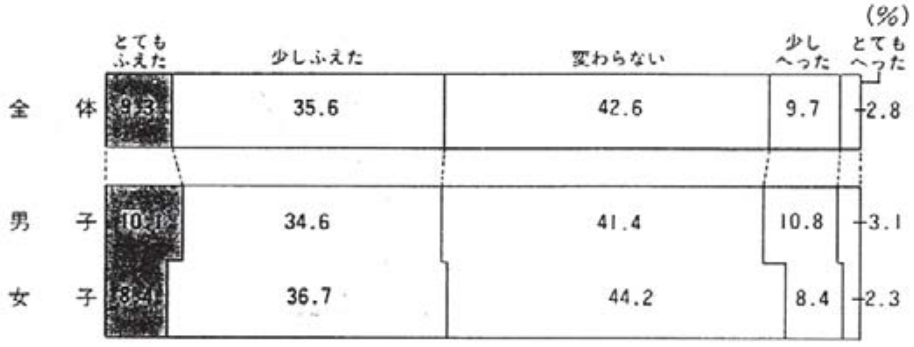


図26　家に帰ってから遊ぶ仲よしの人数

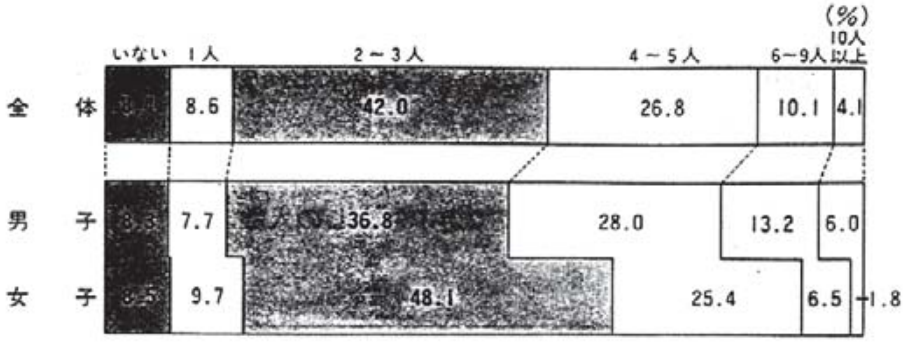
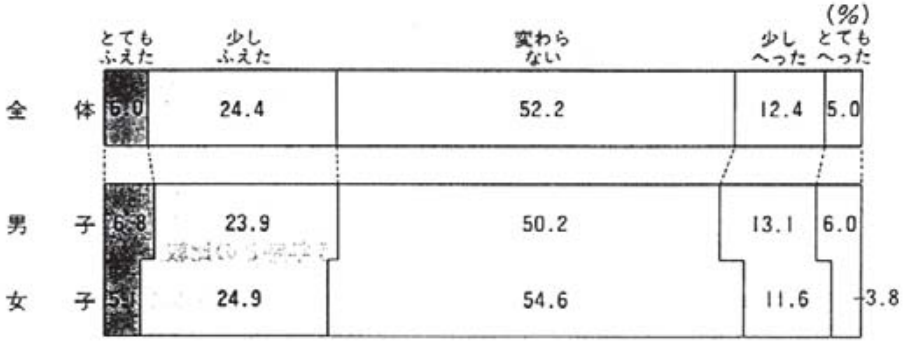


図27　家に帰ってからの仲よしの人数（5年時との比較）



放課後の遊び

家に帰ってからの仲よしの人数は学校に比べ少ないことがわかったが、では、6年の子どもたちは放課後、どのくらい友だちと遊んでいるのか。

図28で示したように、比較的天気のよい日の遊びの実態を調べた結果が図29である。「晴れとくもり」で9割という天候にもかかわらず、遊んだ子は約3人に1人しかいない。また、男子に比べ女子の遊んでいないのが目立つ。

さらに、図30で友だちと遊ぶ頻度を尋ねると、一層友だちと遊ばない実態が明確になる。「ほとんど遊ばない」子が21%もおり、「週に1～2日遊ぶ」の27%と合わせると半数近い。「毎日遊ぶ」子は14%しかいない。とくに女子の遊ばない傾向が、男子に比べ10%ほどの開きがある。

かつて子どもといえば、「遊ぶ者」たちを思い浮かべた。しかし、現代の6年生、とくに女子が遊ばない状況は図31からも言える。図31は友だちと遊ぶ時間を比較したものだが、「とても・少し」ふえたという子が21%に対し、「少し・とても」へった子は42%と2倍もいる。受験組が分化してくるのだろうか。

図28　きのうの天気(調査対象日)

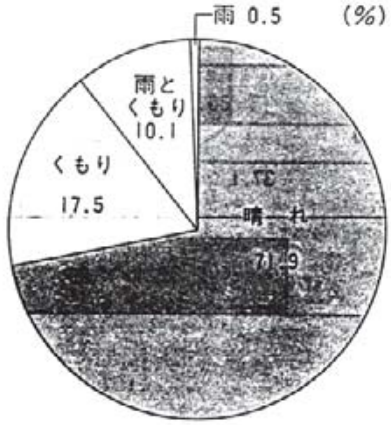


図29　友だちとの遊び

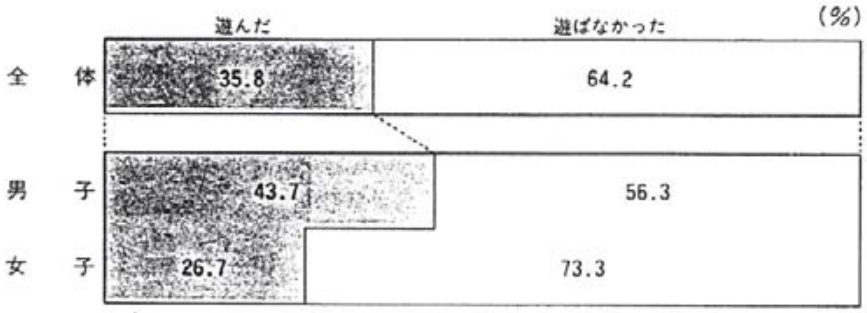


図30　家に帰ってから友だちと遊ぶ頻度

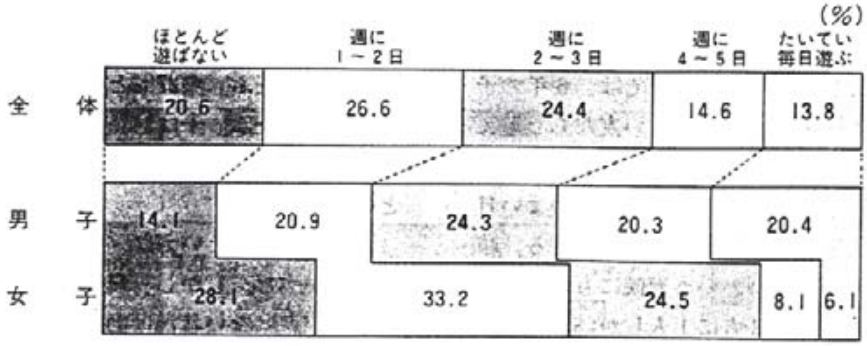
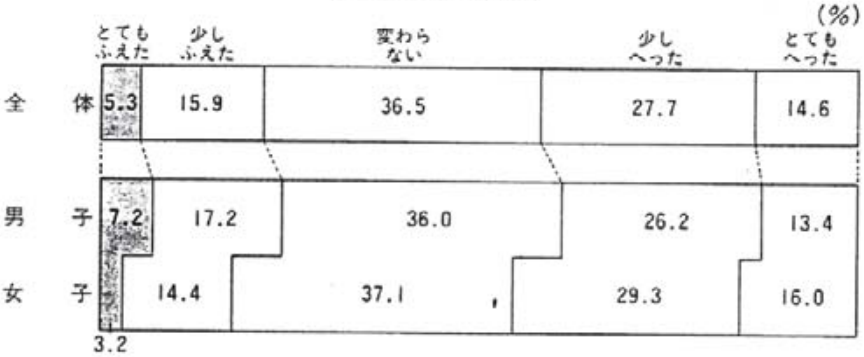


図31　家に帰ってから友だちと遊ぶ時間
（5年時との比較）



異性への意識

6年生の友だち関係と遊びをみてきたところで角度を変え、異性への気持ちについて探ってみよう。

6年生になると「好きな異性がいる子」は、図32でみると、男子41%、女子55%と、半数近い子が「いる」といっており、女子の異性への関心の強さが示されている。さらに図33で、「いつ頃までに好きな相手がほしいか」を尋ねると、「中学になったら」が33%、「高校になったら」が39%で、高校までには好きなボーイフレンド、ガールフレンドを求めている子は7割を超える。この傾向はここでも女子が強い。

小学校低学年では、好きな子がいてもスカートめくりや髪の毛を引っぱるなどの形で、異性への関心や好意が表現されていたが、それに比べ6年生では、表1で6年生になってうれしかった理由として、「えーと、えーと、こい人ができたから」（女子）と述べていたように、自分が関心や好意を持つ相手が焦点化してくる。思春期の入口の子どもたちの姿であろう。

図32　好きな異性の有無

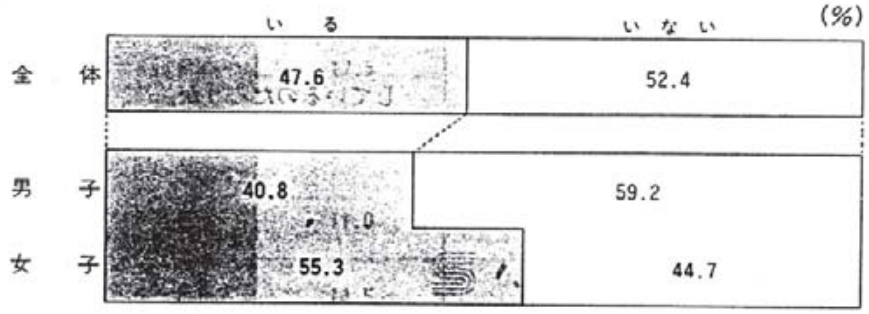
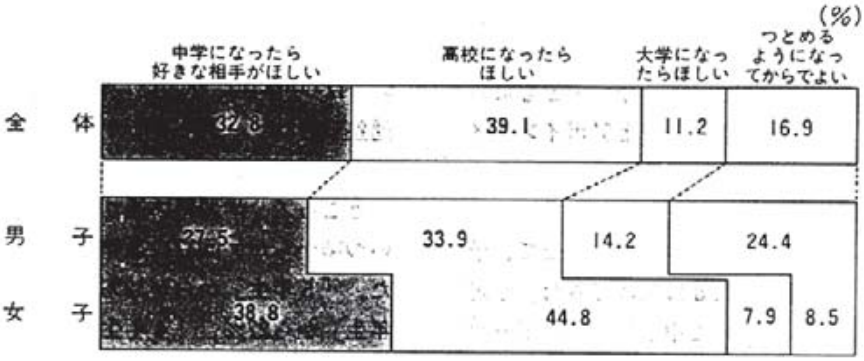


図33　異性への気持ち



5. 忙しい放課後

4章で述べたように帰宅後、彼らは友だちとあまり遊んでいない。では、いったい何をしているのだろうか。

塾・おけいこ通い

表7は、1週間の予定の有無を尋ねたものである。男女ともそれほど差がなく、1週間全く予定のない子は7%、逆に7日間全て予定のある子は6%。1週間に4日以上予定のあるという子は約半数いる。今の子どもたちは、「ねえ、きょう遊べる」とアポイントメントをとってからでないと遊べないのがよくわかる。

放課後の予定を表に具体的に書かせて、予定の多い子の場合を表8に掲げてみた。予定の多い子は、「おけいこ中心型」「スポーツ中心型」「学習中心型」と折衷型の「何でもがんばり型」に分けられそうである。

では6年生の通塾状況からみてみよう。図34、図35によると、「学習塾に行っている」子は6割。「行っていない」4割のうち7割の子は「中学生になったら行く」と考えている。通塾日数は、「週2日」がもっとも多く33%、他方、「週4日以上」の子も23%いる(図36)。

ところで、学習塾に通うようになったのはいつ頃からか、図37に通塾開始時期をまとめた。「5年生」からが32%と一番多く、「6年生」から27%、「4年生」から20%、「3年生以前」と答えた子も21%いた。早くから

通塾させる親もいるが、一般的には4年生から通塾者が増加している。

次に、図38、表9、表10は、おけいこごとについてである。図38が示すように、男子の47%、女子の66%は何らかのおけいこごとをしている。その内容は、表9に示したが、男子は「習字」「野球」「英語」、女子は「ピアノ」「習字」「英語」が多い。中学を意識して英語を習う子がけっこういる。表10ではかつて習っていたが、今はやめてしまったおけいこごとを調べてみた。男女とも「スイミング」が一番多く、男女で順位は違うものの、「習字」「そろばん」「ピアノ」が上位にある。幼い頃には健康のためにスイミングに通わせるが、成長とともに、スイミングから他のおけいこごとに変わっていくようである。

表7　1週間の予定の有無

(%)

	全体	男子	女子
ない	6.7	6.9	6.4
1日	12.7	12.8	12.5
2日	14.1	14.1	14.2
3日	17.5	18.2	16.9
4日	17.2	18.5	15.9
5日	11.0	10.4	11.5
6日	14.5	12.3	16.9
7日	6.3	6.8	5.7

表8　放課後の予定

〈おけいこ中心型〉

（女 子）

よう日	あ な た の 予 定
月	そろばん
火	ピアノ
水	合唱
木	そろばん
金	英語
土	英語
日	合唱

〈スポーツ中心型〉

（女 子）

よう日	あ な た の 予 定
月	バスケット
火	バスケット　水泳
水	水泳　じゅく　バスケット
木	バスケット　水泳
金	バスケット　水泳
土	バスケット　水泳
日	バスケット　水泳

表8　放課後の予定

〈学習中心型〉

（男 子）

よう日	あ な た の 予 定
月	じゅく（算数）
火	じゅく（記述）
水	じゅく（理科）
木	
金	じゅく（国語）
土	じゅく（特算・社会）
日	じゅく（テスト・日特）

〈何でもがんばり型〉

（女 子）

よう日	あ な た の 予 定
月	ミニバスケット　塾
火	ミニバスケット　ソロバン
水	習字・あそび
木	ミニバスケット　塾　ソロバン
金	ミニバスケット
土	ミニバスケット　ソロバン
日	バスケット

図34　通塾率

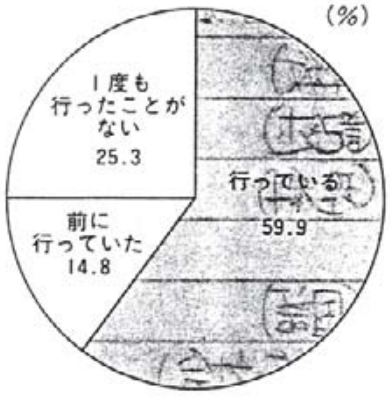


図35　塾に行っていない子の今後の通塾

図36　通塾日数

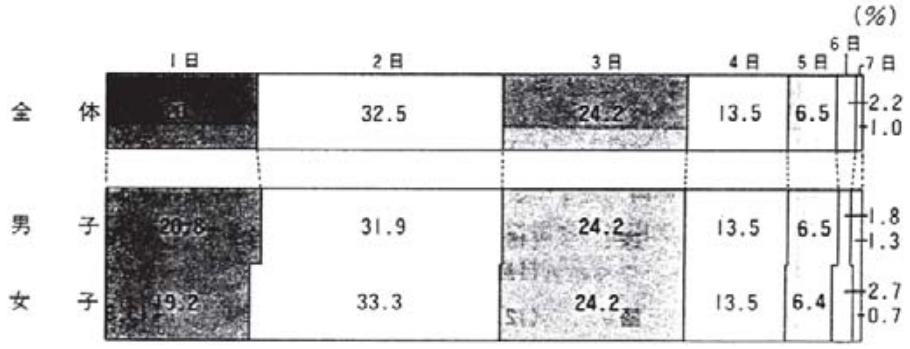


図37　通塾開始時期

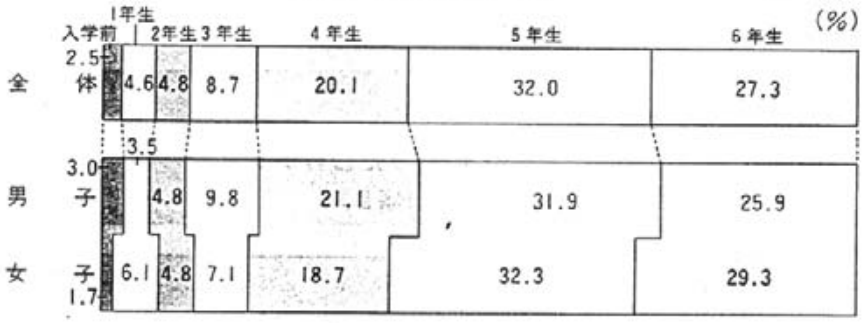


図38　おけいこごと

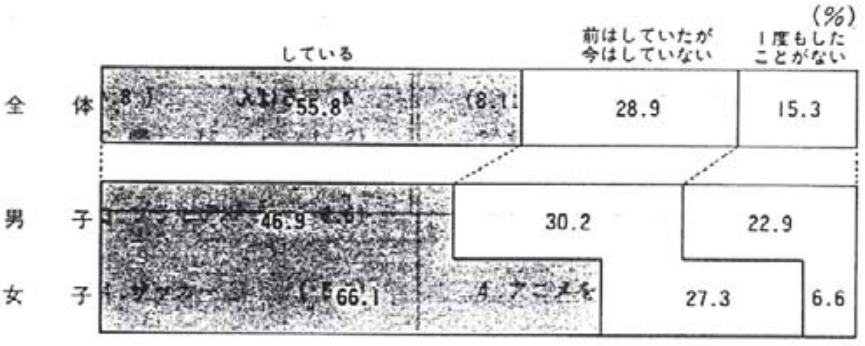


表9　今、やっているおけいこごと
（上位5項目）

(%)

男子		女子	
1.習　字	(20.7)	1.ピアノ	(39.4)
2.野　球	(15.7)	2.習　字	(21.8)
3.英　語	(12.2)	3.英　語	(13.3)
4.スイミング	(9.7)	4.そろばん	(9.9)
5.ピアノ	(9.3)	5.スイミング	(4.7)

表10　やめてしまったおけいこごと
（上位5項目）

(%)

男子		女子	
1.スイミング	(31.1)	1.スイミング	(26.6)
2.習　字	(17.5)	2.ピアノ	(25.9)
3.そろばん	(13.8)	3.習　字	(20.4)
4.ピアノ	(11.8)	4.そろばん	(8.4)
5.野　球	(4.8)	5.絵　画	(4.2)

熱中していること

6年生の子どもたちは今、どんなことに熱中しているか。

図39をみると、男子の53%、女子の47%の子は熱中していることがあるという。その対象をみてみると、男子は「ファミコン」「野球」「プラモデル」「サッカー」「ミニ四駆」が上位を占め、「ファミコン」などの室内遊び派と「野球」などのスポーツ派が多い。女子の場合は、「ピアノ」「勉強」「読書」「アニメをかく」「編み物」が上位にきており、男子に比べ、室内で1人で熱中する傾向が強い(表11)。

図39　熱中していること

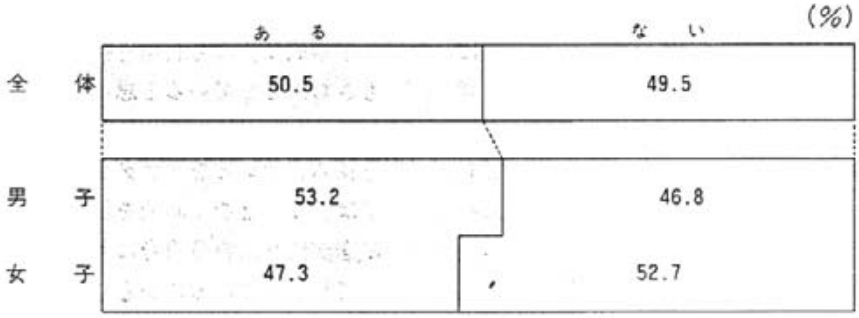


表11　熱中していること(ベスト5)

(%)

男子		女子	
1.ファミコン	(22.2)	1.ピアノ	(9.5)
2.野球	(11.2)	2.勉強	(8.8)
3.プラモデル	(8.6)	3.読書	(8.5)
4.サッカー	(6.7)	4.アニメをかく	(7.4)
5.ミニ四駆	(4.7)	5.編み物	(6.9)

テレビとのつきあい

さて、図40は６年生のテレビ視聴状況である。図からわかるように、毎日テレビを「３時間以上」見ている子は36%、その反面「１時間以内」に視聴時間をおさえている子は20%を占める。女子に比べ男子の視聴時間が長い。図21の家庭学習時間に比べるとテレビ視聴時間はずい分長くなっている。友だちとも遊ばず、熱中していることもないという子はテレビを「わが友」として暮らしているのではないだろうか。

では、どんな番組に人気があるのか。表12にあるように男女ベスト３以内に、「ドラゴンボールＺ」（マンガ）、「とんねるずのみなさんのおかげです」（バラエティ）、「愛しあってるかい」（学園ドラマ）の３番組が入っている。男子はマンガに人気があり、中でも「ドラゴンボールＺ」が34%と圧倒的に人気がある。女子は、マンガよりもドラマやバラエティ番組のほうが好きである。一番の人気番組に「愛しあってるかい」をあげているが17%と圧倒的に人気というわけでなく、男子に比べ好む番組が多様である。

テレビを長く見ている子の気持ちに接近を図ったのが表13である。表13では自己像とテレビ視聴時間との関連について調べてみたところ、視聴時間が「30分以下」とテレビをがまんしている子は、「勉強」も進んでやり、「学業成績」にも自信を持ち、「生活態度」もきちんとしていると思っている。テレビを見ていない子は、がまんしている自分に誇りを持ち、テレビをダラダラ見てしまっている子は、なんとなく時間を浪費したような後悔の念が残り、自分自身にも自信が持てなくなってしまっているのかもしれない。

図40　テレビ視聴

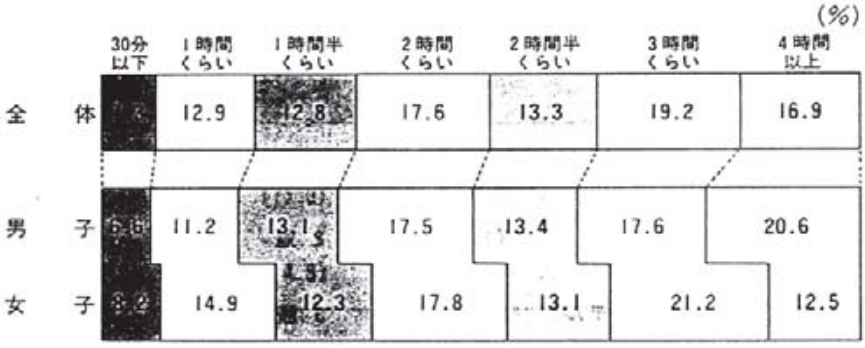


表12　人気テレビ番組(ベスト5)

(%)

男子		女子	
1.ドラゴンボールZ	(33.8)	1.愛しあってるかい	(17.0)
2.とんねるずのみなさんのおかげです	(7.9)	2.とんねるずのみなさんのおかげです	(9.5)
3.愛しあってるかい	(3.4)	3.ドラゴンボールZ	(8.9)
4.スクールウォーズ	(3.4)	4.邦ちゃんのやまだかつてないテレビ	(5.5)
5.ドラえもん	(2.8)	5.らんま$\frac{1}{2}$	(4.5)

表13　自己像×テレビ視聴時間

(%)

	視聴時間			
	30分以下	1〜1時間半くらい	2〜2時間半くらい	3時間以上
1.学校の成績	(12.6) >	6.3	3.3	2.8
2.友だちからの人気	(8.0)	3.9	3.9	3.5
3.きそくやきまりを守ること	(8.1)	6.0	3.9	5.4
4.宿題以外の勉強もすすんでする	(32.2) >	17.4 >	8.0	6.8
5.いわれなくても身のまわりの整理整頓をする	(27.6)	25.0	21.9	24.0
6.朝、起こされなくても1人で起きる	(35.6) >	28.6	25.4	29.5

◯は最大値
1〜3=「とてもよい」割合、4〜6=「いつもする」割合
不等号は5%を単位として差を表す

6. 家庭生活をめぐって

思春期に近づくと子どもは「親離れ」し、親ともなかなか話もしなくなる。自分独自の考えにしたがって行動したり、親を批判したりする言動が目立つ時期でもある。本章では、そうした視点から6年生の家庭での生活ぶりと、親子関係に接近してみることにしよう。

22 親子のふれあい

図41は、父親とのふれあいをみたものである。男子も女子も父親は「頼りになる」と思っている子は7割を超えている。父親と「話をする」子もやはり7割を超え、「自分のことをよくわかっている」と思っている子も3分の2いる。逆に「口うるさい」と思っている子も3分の1いるものの、「嫌われていると思っている」子はほとんどいない。男女差がみられるのは、「ほめられること」と「おこられること」で、父親は女子にやや甘く、男子にややきびしく接しているように見うけられる。

予想以上に父親とのふれあいがあり、父親への評価もよい。次に、母親とのふれあいについて図42をみると、母親と「話をする」子は「とても・わりとある」で9割を超し、「頼りになる」「自分のことをよくわかっている」と思っている子も7割を超す。父親以上に母親は子どもたちとふれあいがあり、評価も高い。とくに男子に比べ女子とのふれあいが多く、心も通じあっているようである。

全体として6年生の親子関係は、予想以上

に密接だ。母親と「話をすること」が「とてもある」子が男子で55%、女子で74%いるということは、ある意味で、6年生になっても母子分離が十分でなく、個としての自立性が十分には育っていないことを示すものかもしれない。

この点についてもう少しデータをみてゆこう。現代は働く母親の時代といわれるだけに、図43の母親の職業をみると、仕事を何らかの形で持っている母親が3分の2に達する。

では、母親が家を空けることに対し、6年生の子はどんな反応を示すのか。図44をみると、「毎日いてほしい」と自立性の未発達につながる反応を示す子は、男子で25%、女子で41%もいる。今の6年生、なかでも女子はまだかなり幼児性を残しているのかもしれない。

図41　父親とのふれあい

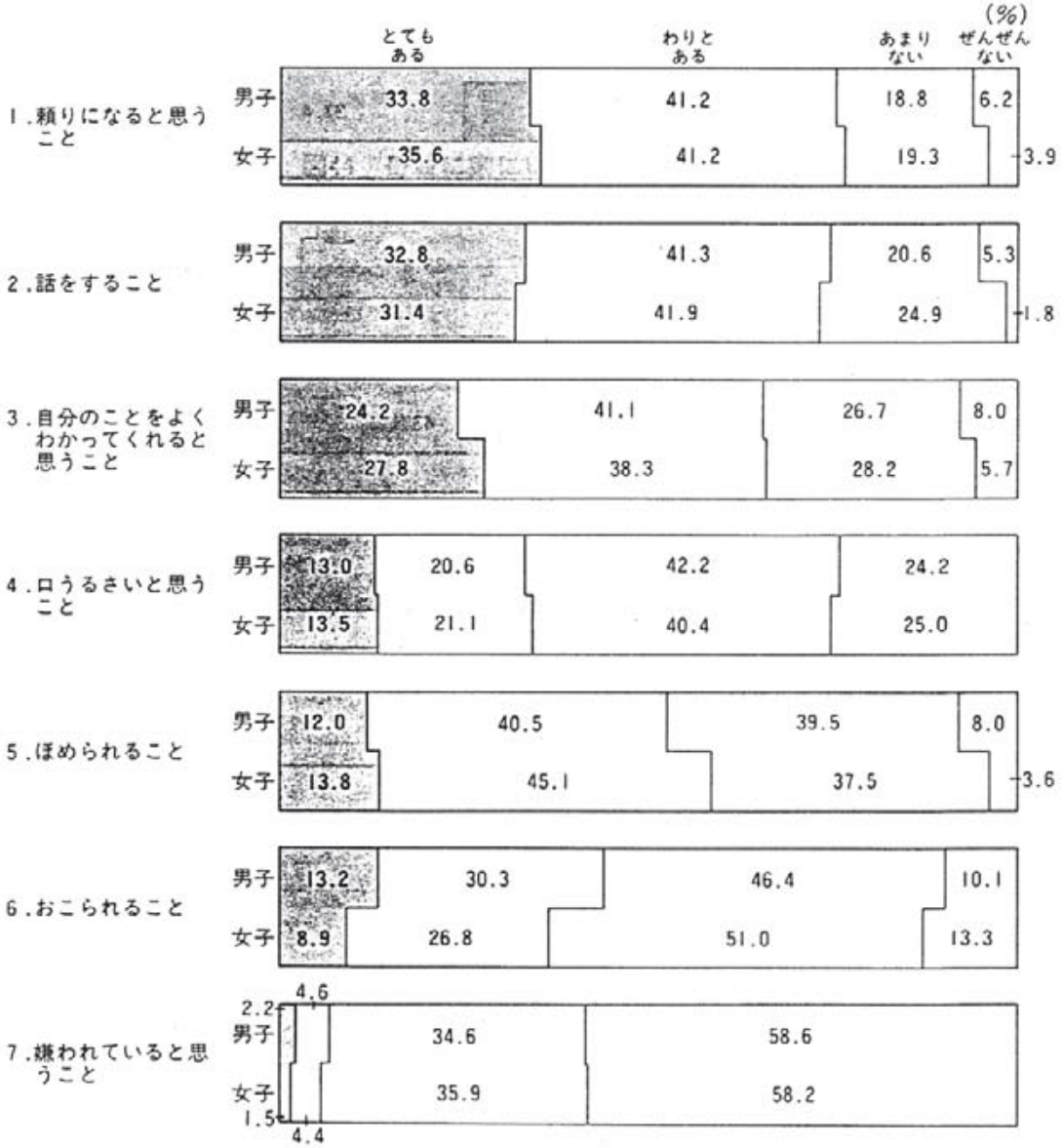


図42　母親とのふれあい

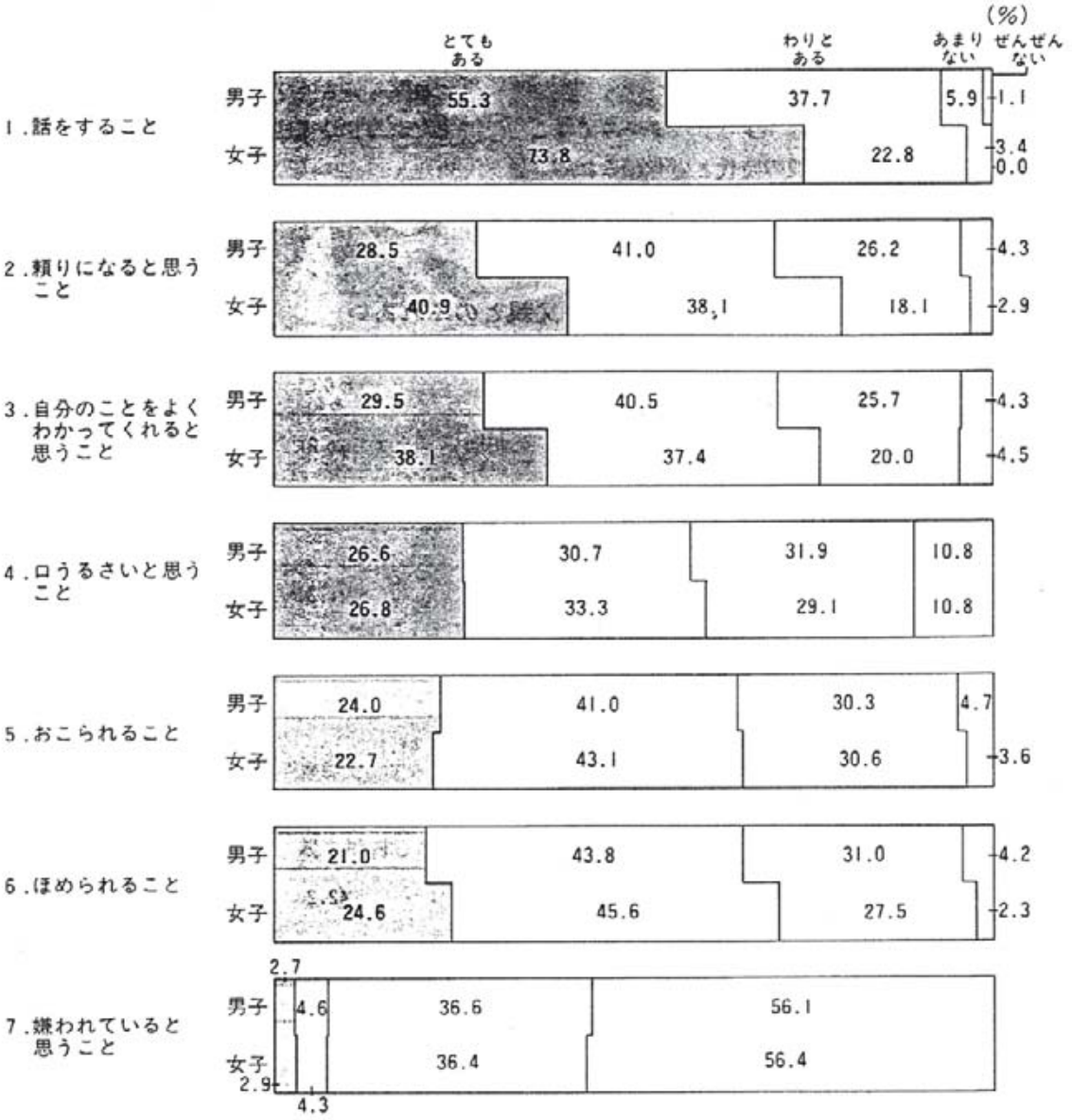


図43　母親の職業

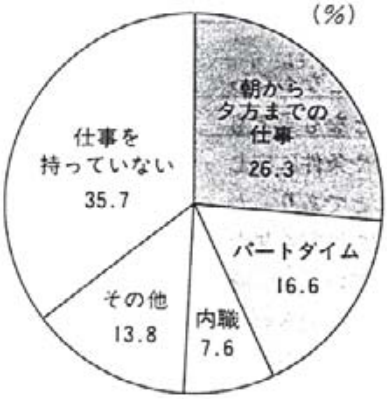
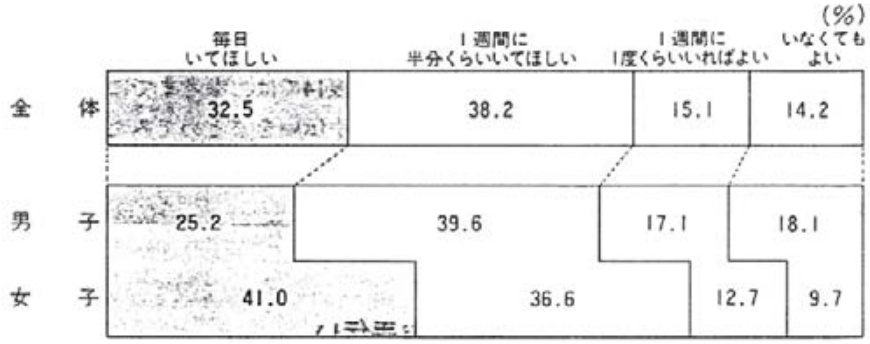


図44　母親に家にいてほしい気持ち



お手伝い

最近の子どもたちはお手伝いをしなくなったという声をよく耳にする。おとなも子どもも家族の一員として、その年齢や条件に応じて家事を分担するのは当然のことであり、かつての子どもたちは、家事分担の役割を果たす中で多くの体験をし、成長していった。その意味で、お手伝いの教育的意義は大きい。

では、6年生はどのくらいお手伝いをしているのか、図45をみてみよう。図をみてわかるように、「毎日する」子は男子で17%、女子で28%。「わりとする」を含めると男子で39%、女子で58%になる。さらに、図46で5年時とのお手伝い時間を比較すると、「ふえた」という子は男子で3割、女子で4割だが、そのほとんどが「少しふえた」である。その一方で、男女とも2割ほどの子が「へった」と答えている。

家事分担としてのお手伝いを考えると、「毎日する」がお手伝いの本質と思う。それにしては毎日決められた仕事を持つ子が少ない。6年生になって「お手伝いがへった」という子もいることを考えると、母親がお手伝いよりも勉強を優先させている場合が多いのではないか。

お手伝いと母親の仕事の関連を図47でみると、当然のことかもしれないが、母親が仕事を持っている子ほど、お手伝いをする割合が高い。しかし、フルタイムで働く母親の家庭でも4割の子はあまりお手伝いをしていない。家族の一員として子どもたちにもっとお手伝いをさせ、自立する力をつけていく必要性を強く感じる。

表14では、参考までに、6年生がしているお手伝いをまとめてみた。男子では「風呂掃除」、女子では「食器洗い」が一番多い。

図45　お手伝い

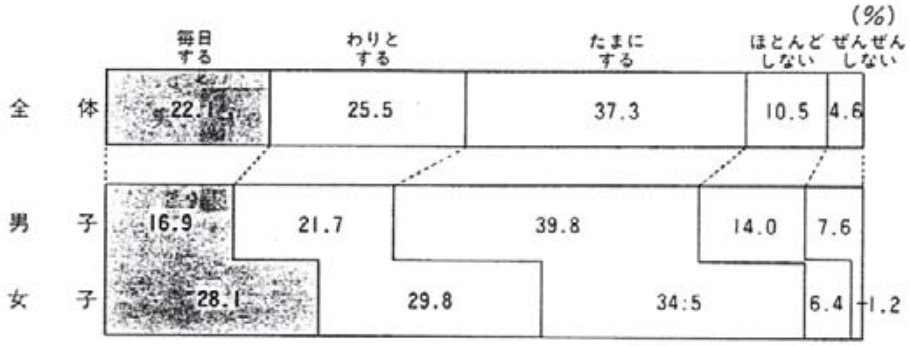


図46　お手伝いの時間（5年時との比較）

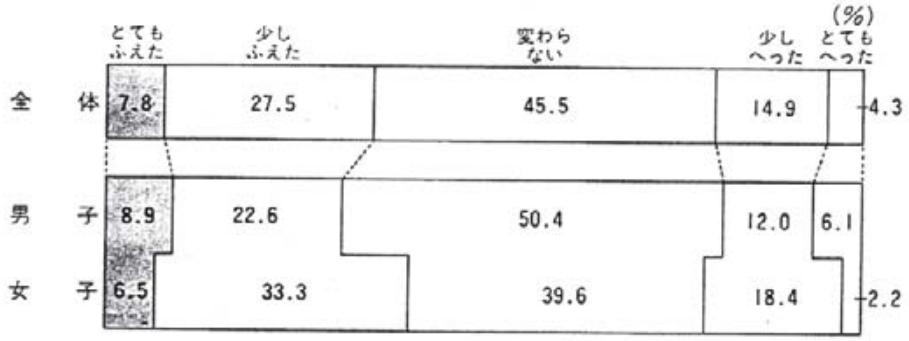


図47　お手伝い×母親の仕事

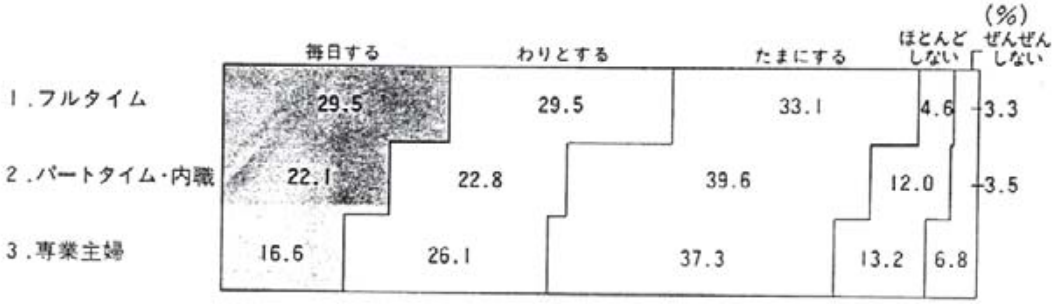


表14　お手伝いの内容
（上位5項目）

(%)

男　子		女　子	
1.風呂掃除	(17.1)	1.食器洗い	(28.3)
2.食器洗い	(14.5)	2.食事の準備	(15.9)
3.おつかい	(11.3)	3.風呂掃除	(11.3)
4.掃　除	(9.2)	4.洗　濯	(9.2)
5.ゴミ捨て	(8.2)	5.掃　除	(8.8)

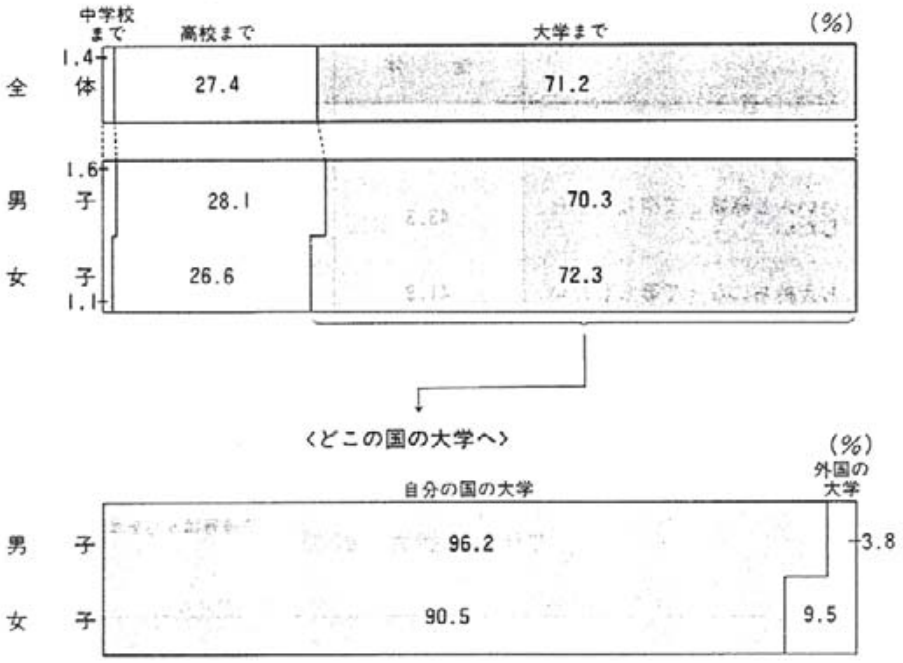
7. 6年生の描く未来の自分

6年生の子どもたちは自分の未来にどんな夢を抱き、どう自己形成しようとしているのだろうか。ここでは、子どもたち一人一人がその胸の中に抱いている彼らの未来像に接近してみたい。

いつまで学校へ行きたいか

子どもたちはどの学校段階まで進学したいか。図48が示すように、男女とも7割ほどの子が大学進学を希望している。しかし、外国の大学への留学希望は少なく、自国の大学への進学を望んでおり、この傾向は男子に強い。6年生の子どもたちは、海外の大学で学ぼうというチャレンジ精神に乏しいのだろうか、それとも海外の大学よりも日本の大学のほうを評価しているのだろうか。

図48　進学希望



将来の生活

子どもたちの中にある将来生活プランをみてみよう。**表15**によると、「自分の趣味にあった暮らし」をして、「いい人と結婚して楽しく暮らす」ということを夢みている子どもたちが、男女とも4割を超える。加えて、男子の場合は「お金持ちになりたい」という願望が強い。

今の子どもたちの多くは、お金の苦労をせずに、マイホームを中心に自分の人生をエンジョイできればよいと考えている。「がんばって仕事をして有名になる」とか「社会に貢献したい」という大きな希望を抱いている子は2割ほどで、女子の場合は1割強しかない。かなり堅実なというか、現実的で夢のない人生設計を描いている。それが悪いというわけではないが、もっともっと大きな夢を持って自分たちの未来を切り開いていってほしいと強く思うのは筆者だけだろうか。

次に、子どもたちが描く将来の生活の実現へ向けての自信を尋ねたのが**表16**である。表をみて気づくのは、子どもたちの自信のなさである。最も自信のある「幸せな家庭をきっと作る」で38%、「よい父(母)親にきっとなる」でさえ21%。それ以外の項目は1割そこそこしかない。

将来の生活に大きな夢を抱かず、堅実なマイホーム生活を夢みて、人生を楽しく過ごせればいいと思っているにもかかわらず、その実現に自信を持てない子どもたち。この自信のなさは、どうしてなのだろう。

表15　将来の生活

(%)

	全　体	男　子		女　子
1.趣味にあった暮らしをしたい	45.8	44.8		46.9
2.いい人と結婚して楽しく暮らしたい	43.3	42.2		44.7
3.お金持ちになって暮らしたい	41.9	50.3	≫	32.0
4.がんばって仕事をして有名になって暮らしたい	22.9	31.2	≫	13.4
5.社会のためになるようなことをして暮らしたい	19.8	25.4	＞	13.2

「とてもそう思う」割合
不等号は5%を単位として差を表す

表16　将来の自分への自信

(%)

	全　体	男　子		女　子
1.幸せな家庭を作る	37.5	34.1	＜	41.3
2.よい父(母)親になる	21.3	20.7		22.0
3.仕事で成功する	16.9	21.9	＞	11.1
4.お金持ちになる	10.9	16.3	≫	4.7
5.なるのが難しい仕事をする	10.2	14.3	＞	5.4
6.みんなから好かれる人になる	8.1	10.4	＞	5.4

「きっとそうなれる」割合
不等号は5%を単位として差を表す

女性のあり方について

図43で紹介したように、仕事を持っている母親は3分の2ほどいる。自分の近い将来のあり方として、結婚後の女性のあり方についてはどのように考えているのだろうか。図49が示すように、「働く母親でありたい」という女子は39%、「働く母親を妻にしたい」という男子は32%と、ほぼ3人に1人の子は、共働きをしようと考えている。

さらに表17をみると、今、母親が仕事を持っている子ほど、「働く母親でありたい」「働く母親を妻にしたい」と思っている。働く母親の中には、「子どもの面倒を十分みてあげられない」「子どもに負担をかけている」「寂しい思いをさせているのではないか」と悩む母親がいるが、働く母親の子どもたちは、母親が働くことに対し理解を示しているようである。

図49　女性のあり方

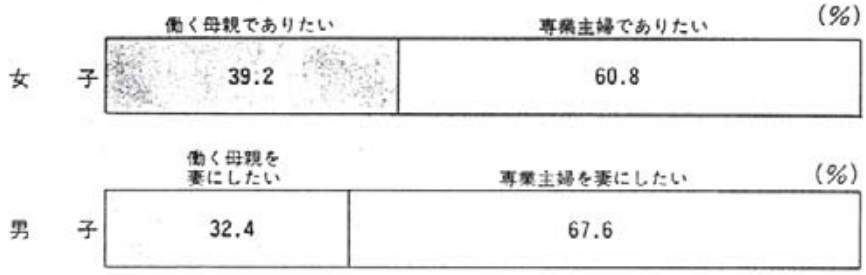


表17　女性のあり方×母親の仕事

(%)

	母親の仕事		
	フルタイム	パートタイム・内職	専業主婦
働く母親でありたい	(44.9)	40.9 >	34.2
働く母親を妻にしたい	(41.5) >	33.2 >	25.5

◯は最大値
不等号は5%を単位として差を表す

8. まとめに代えて

中学生への気持ち

これまで6年生の子どもたちの姿をとらえるために多くの領域にわたってのデータを紹介してきた。最後に6年間の小学校生活を終え、中学校へ進学しようとしている子どもたちが、中学校生活に対しどんな気持ちを抱いているのかを紹介して、本レポートのまとめに代えたいと思う。

図50は、中学生になりたい気持ちを尋ねたものである。「早く中学生になりたい」と期待に胸をはずませている子は46%だが、一方で、「小学生のままでいたい」(37%)、「幼稚園の頃に戻りたい」(17%)という成長欲求の弱い子どもたちが半数を超える。

このような気持ちは、どんな点から生じているのだろうか。その代表的な理由を表18～表20に掲げてみた。

「早く中学生になりたい」理由としては、表18にあるように、「もっともっといろいろな友だちがほしい」「いい先生にめぐりあいたい」「部活動をがんばりたい」「英語などの新しい勉強ができる」などの理由が多く、新しい環境でがんばりたいという子どもたちの熱気が伝わってくる思いがした。女子の中には「制服が着たい」「おしゃれをしたい」というかわいい理由もけっこうある。

表19では「いつまでも小学生のままでいたい」という理由をまとめたが、「中学は勉強が難しそう」「今の友だちと別れたくない」「先輩・後輩の区別がいや」「中学は規則がきびしい」「中学には不良がいる」などの理由が主なものだった。中学という未知のものに対する不安が強く、もっとチャレンジ精神

をもちがんばれと、思わず声をかけたくなってしまうものばかりだった。

最後に、「幼稚園の頃に戻りたい」という子の理由を**表20**にまとめた。ここでは「幼稚園は勉強もなく、先生もやさしく楽しかった」という理由と「もう一度幼稚園からやり直したい」という理由の二つに大別できる。6年生になっても幼稚園時代をなつかしむ自立の遅れた子どもたちも気になるが、小学校6年生、12歳にして早くも自分の人生に希望を失い、もう一度やり直したいと将来の目標を失いはじめている子もいる。こういう子どもたちに対し、筆者ら教師や親はどう手をさしのべていったらよいのだろうか。現在の6年生の置かれている状況をもう一度見つめ直し、子どもらしい発達の姿をとり戻すために、おとなたちの努力が要求されることを感じさせられる。

図50　成長欲求

(%)

	早く中学生になりたい	いつまでも小学生のままでいたい	幼稚園の頃に戻りたい
全体	45.9	37.2	16.9
男子	47.6	34.5	17.9
女子	43.9	40.3	15.8

表18　中学生への気持ち

〈早く中学生になりたい〉

(男子)

もっともっといろいろな友達がほしい。
それに、いい先生にもめぐりあいたいから。

中学生になると、部活などがさかんでとてもいいと思ったから。

早くえいごをおぼえて、がいこくにいきたい。

表18　中学生への気持ち

〈早く中学生になりたい〉

（男子）

はやく大人になってお金を自分の力でもうけたいから。

頭が少しよくなるかもしれないし、ガールフレンドができるかもしれないから。

（女子）

中学校ってどんな所だか　はやくしりたいから。

新しい友達をたくさんつくりたいから。制ふくをはやくきたいから。

○はやくバレーボールをやりたいし、友達もかれるし、教科ごと先生がかれるから。

いままでの勉強だけでなく、社会にやくだついろいろな学習ができるから。

早く中学になって、おしゃれをしたい。

表19　中学生への気持ち
〈いつまでも小学生のままでいたい〉

（男 子）

べんきょうも多くなるし友達とも
あまりあそべない。せい服は
やだ。

中学になるとしゅくだいや、
きまってテストがあるから。

中学になると、先ぱいとこうはいの区別
がつくから
今の友達とわかれたくない。

中学に行くと自由がなくなるかもしれない
から。

小学生のころが一ばんやり
たいことができるから。

（女 子）

中学校はべんきょうがむずかしそうだし
じゅけんがあるからいやだ。

表19　中学生への気持ち

〈いつまでも小学生のままでいたい〉

（女子）

中学校はやさしい先ぱいもいるけど、
先生もロうるさそうだし帰りもおそくて(部活など)
友達ともあまり遊べないし、先ぱいもこわいし。
とにかく小学生のままでいたい。
今の友達とずっといっしょでいたい。

・中学生で"いじめ"をきいたことがある。
・先生がすごくこわいということも
きいた
・中学をぬかして、高校になりたい。

小学校は楽しいんだけど
中学生になると不良がいて
こわいから。

中学にいくと、規則がきびしいから。

表20　中学生への気持ち

〈幼稚園の頃に戻りたい〉

（男子）

勉強もないし、日曜日は、遊べたし、
わりと気楽な生活がおくれたから。

また、ようちえんみたいに、たのしい
ことをしたい。

表20　中学生への気持ち

〈幼稚園の頃に戻りたい〉

（男子）

ようちえんはあいうえおしかおぼえないから。
ようちえんはバスだから。

小学校に入ったら、毎日いつもいじめられ、中学校に入ってもあまりかわらないだろうから、一番たのしかったようちえんのころにもどりたい。

大きくなることにつらくなっていくから。

（女子）

先生がやさしく自由なことができるから。

勉強などがなくて お母さんとかも、やさしくしてくれるし、たくさん あそべるから。

だれと、でも仲よくできるから。
男子と女子の交じわりがある。

今まで、いろいろな失敗が、あったので、それをようちえんから、やりなおしたいと思ったから

人生を、やりなおしたい。